

(仮称)北野沢風力発電事業 更新計画

環 境 影 響 評 価 準 備 書

補 足 説 明 資 料

令和 7 年 3 月

株式会社ユーラスエナジーホールディングス

風力部会 補足説明資料 目次

1. 既設ヤード返地範囲の整備予定について【平口顧問】（準備書 p. 12）	1
2. 既設風力発電機の撤去工事について【水鳥顧問】（準備書 p. 14）	1
3. 新設道路の横断面図の道路寸法について【平口顧問】（準備書 p. 15）	2
4. 種子吹付け等で用いる種について【阿部部会長】（準備書 p. 18）	5
5. 積み替えについて【近藤顧問】（準備書 p. 22）	5
6. アルカリ排水の処理について【岩田顧問】（準備書 p. 25）	5
7. 道路工事における雨水排水対策について【水鳥顧問】（準備書 p. 25）	6
8. 既設の沈砂池の撤去判断について【平口顧問】（準備書 p. 26）	6
9. 廃油の発生源について【平口顧問】（準備書 p. 28）	6
10. 樹木伐採面積の根拠について【平口顧問】（準備書 p. 32）	7
11. 風力発電機大型化に伴う渡りルートへの影響について【鈴木伸一顧問】（準備書 p. 34～36）	7
12. 新岩屋・新尻労等の事後調査結果について【阿部部会長】（準備書 p. 35）	8
13. 表流水の取水地点について【平口顧問】（準備書 p. 128）	8
14. 注の意図について【近藤顧問】（準備書 p. 201）	10
15. 水質予測の基本的な手法について【水鳥顧問】（準備書 p. 217、411）	10
16. 水質調査地点③～⑤の現地の詳細について【平口顧問】（準備書 p. 218～219）	11
17. 沈砂池の構造例について【平口顧問】（準備書 p. 410）	15
18. 沈砂池の設計について【水鳥顧問】（準備書 p. 413）	16
19. 風車の影の環境保全措置について【近藤顧問】（準備書 p. 438）	16
20. 既設風力発電機への苦情・意見について【近藤顧問】（準備書 p. 440）	16
21. コウモリ類の DNA 鑑定について【阿部部会長】（準備書 p. 508）	17
22. 風速階級 1 回当たりのコウモリ類の確認回数について【小島顧問】（準備書 p. 502 及び p. 503 表題）	17
23. 既設風力発電機建設前後の変化について【小島顧問】（準備書 p. 898～916）	18
24. 重要な両生類への影響予測について【岩田顧問】（準備書 p. 898）	23
25. 重要な群落と現存植生図の重ね合わせ図について【鈴木伸一顧問】（準備書 p. 948～949）	23
26. エゾイタヤ群落の判定基準について【阿部部会長】（準備書 p. 956）	24
27. 既設風力発電機によるクマタカの行動への影響について【阿部部会長】（準備書 p. 1017）	24
28. 既設風力発電機の近傍での採餌について【阿部部会長】（準備書 p. 1019～1020）	25
29. 既設風力発電機によるカラ類への影響について【阿部部会長】（準備書 p. 1029～1030）	25
30. フォトモンタージュに用いた写真について【阿部部会長】（準備書 p. 1053）	26
31. 現況と完成後のフォトモンタージュに用いた写真の違いについて【阿部部会長】（準備書 p. 1056）	26
32. 死骸サンプルの DNA 解析について【阿部部会長】（準備書 p. 1106）	26
33. 植生調査票の表記について【鈴木伸一顧問】（準備書資-19～50）	27
34. 群落組成表（森林植生）について【鈴木伸一顧問】（準備書資-62～79）	27
35. 騒音及び超低周波音、振動の調査地点について（非公開）【経済産業省チェックリスト No. 15】	28

36. 施設の稼働に伴う騒音の寄与値算出に伴う減衰項について【経済産業省チェックリスト No. 38】	34
--	----

1. 既設ヤード返地範囲の整備予定について【平口顧問】（準備書 p. 12）

緑化面積（1.2ha）として道路及びヤードの法面範囲を想定しているようですが、既設風力発電機ヤード返地エリア（1.4ha）はどのように整備（あるいは原状復帰）する予定でしょうか。

（事業者の見解）

現時点では、既設風力発電機ヤードは緑化範囲としておりませんが、今後の手続きにおける詳細設計の中で、土砂流出の懸念がある場合は緑化を検討し、原状復帰いたします。

2. 既設風力発電機の撤去工事について【水鳥顧問】（準備書 p. 14）

既設風力発電機の撤去工事に関する環境保全措置について、説明してください。また、既設の風車発電機の構造を教えてください。杭基礎は、あるのでしょうか。その場合、杭の撤去は実施されるのでしょうか。

（事業者の見解）

既設風力発電機の撤去工事についても、新設風力発電機の建設工事と同様に環境保全措置を講じます。特に、既設風力発電機の撤去に当たっては、建設機械の稼働に伴う騒音の影響が生じる可能性がございますので、可能な限り低騒音の建設機械及び工法を採用するとともに、地元の住民の皆様に対しては、工事に関する周知を徹底いたします。

また、既設風力発電機の基礎はすべて杭基礎となります。なお、原状復帰の仕様は地権者様と協議の上、決定いたしますが、基本的に既設風力発電機の基礎は撤去する予定です。

（二次意見）

評価書では、既設風力発電機の撤去工事に関する環境保全措置を明記してください。

（事業者の見解）

評価書においては既設風力発電機の撤去工事も新設風力発電機の建設工事と同様に環境保全措置を講じる旨を記載いたします。

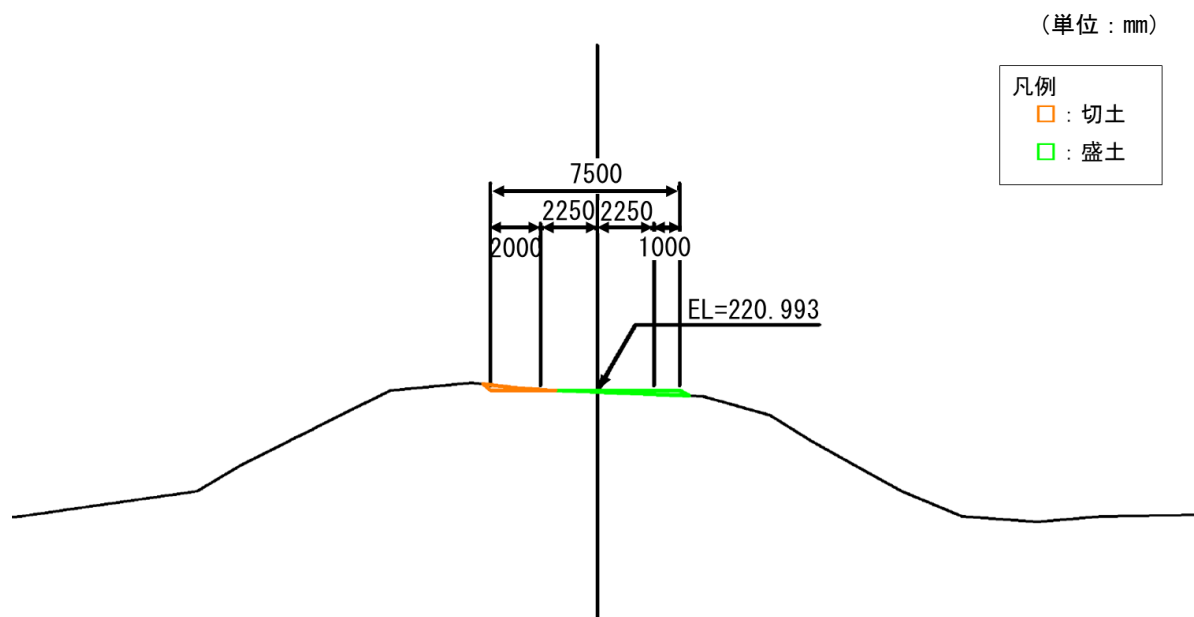
3. 新設道路の横断面図の道路寸法について【平口顧問】（準備書 p. 15）

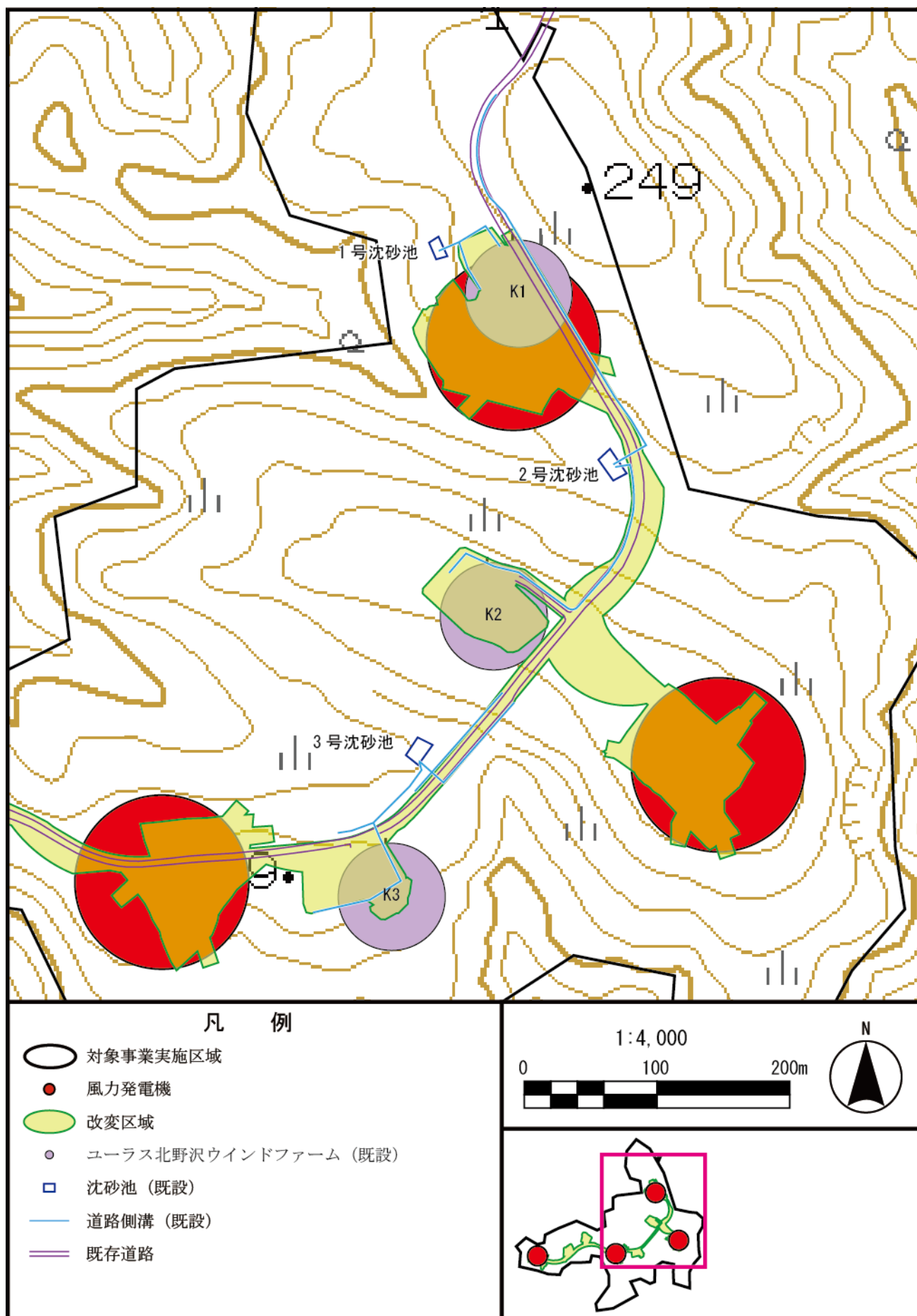
図が小さいこともあり道路幅寸法等の数値を読むことができません。もう少し大きく鮮明な図面をお示してください。ところで、既設及び新設道路には側溝等はないのでしょうか。

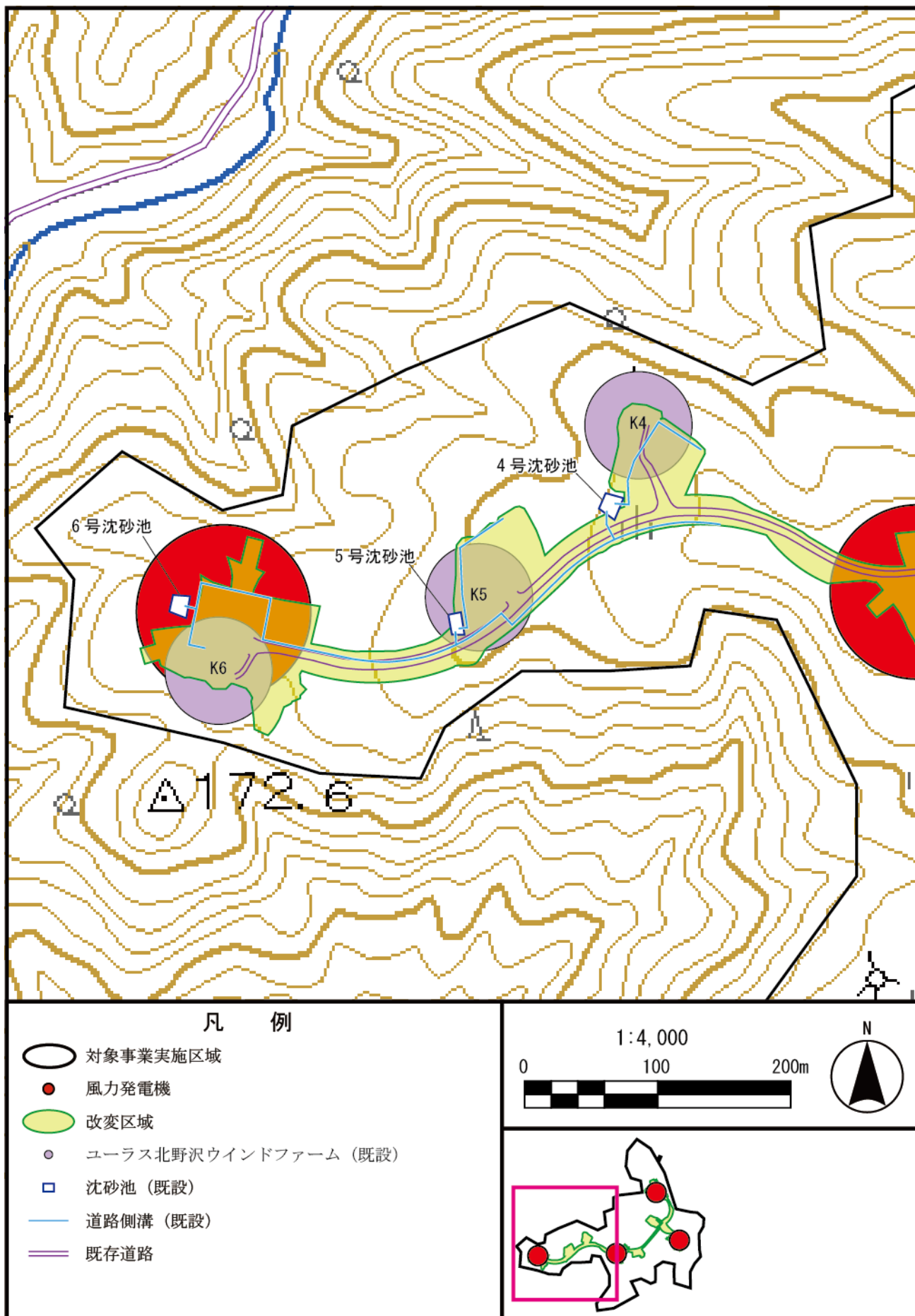
（事業者の見解）

新設道路の横断面図の道路寸法を鮮明にした図面を以下にお示しいたします。

また、既設道路の側溝を以下にお示しいたします。準備書において新設道路の側溝をお示しておりませんが、詳細設計及び現地の状況を踏まえ、新設道路にも側溝を設置する計画としております。







4. 種子吹付け等で用いる種について【阿部部会長】（準備書 p. 18）

準備書チェックリストでは「・具体的な緑化計画の内容（緑化工法、植栽種等）が記載されているか。」に○は付いていますが、種子吹付け等で用いる種類については、極力在来種とまでしか書かれておりません。植物の現地調査の結果を受け想定される種（主に用いる想定在来種、それ以外に用いる可能性のある想定外来種）について明記してください。

（事業者の見解）

現時点では、種子吹付け等で用いる種類について具体的に確定しておりません。なお、安全性確保の観点から植生の早期回復並びに法面崩壊を防ぐため、地盤特性を踏まえながら、可能な限り、ヨモギやメドハギ等の当該地域に生育する種を使用した法面緑化の手法を採用いたします。

5. 積み替えについて【近藤顧問】（準備書 p. 22）

大型部品の輸送に際し、途中での積み替えを行うのでしょうか。

（事業者の見解）

現時点では、住宅から可能な限り離隔を取れた平場を候補地として検討しております。

6. アルカリ排水の処理について【岩田顧問】（準備書 p. 25）

コンクリート打設時のアルカリ排水への対応について記述することをご検討ください（方法書補足説明資料No. 6）。

（事業者の見解）

評価書においてはコンクリート打設時のアルカリ排水への対応について記載することを検討いたします。

具体的には、コンクリート工事に当たっては、打設時に余ったコンクリートは持ち帰り、プラントにおいて処分いたします。また、コンクリートポンプ車の現場での洗浄については、洗いを外部に流出させないように対策を講じ、洗いを蒸発させ、残渣は回収し、産業廃棄物として適切に処理いたします。

7. 道路工事における雨水排水対策について【水鳥顧問】（準備書 p. 25）

風車発電機設置ヤードだけでなく、道路工事区域等の雨水排水対策についても、具体的に説明・記載してください。

（事業者の見解）

詳細設計及び現地の状況を踏まえ、雨水排水対策として、管理用道路等の改変区域においても、表面水による土砂流出が懸念される場所に土砂流出防止柵（しがら柵等）及びふとんかご等を設置する計画です。

（二次意見）

評価書では、道路工事区域等の雨水排水対策についても明記してください。

（事業者の見解）

評価書においては新設風力発電機組立ヤードの他、管理用道路等を含めた改変区域における雨水排水対策を記載いたします。

8. 既設の沈砂池の撤去判断について【平口顧問】（準備書 p. 26）

- ①「建て替え後の沈砂池については、メンテナンス作業時の支障の有無等の現地の状況を確認しながら残置するかを判断する。」（p. 26の下から9行目）とあります。図2. 2-4からは判断できませんが、既設風車の各ヤードには沈砂池が設置されているとの理解で良いでしょうか。
- ②建て替え後の沈砂池の撤去の判断は、旧ヤードからの濁水発生の可能性を判断基準としてください。

（事業者の見解）

- ①準備書では既設沈砂池をお示ししておりませんが、既設風力発電所にも設置しております。既設沈砂池の位置は Q3 において回答した図面にお示しいたします。
- ②既設沈砂池は改変範囲の流域が既設風力発電機と同じ場合、活用できると考えております。そのため、今後の手続きにおいて、既設風力発電機の管理ヤードからの濁水も考慮しながら、活用の可否を検討いたします。

9. 廃油の発生源について【平口顧問】（準備書 p. 28）

廃油とあるのは、モーター・増速機・制御装置等の潤滑油やグリースの事でしょうか。

（事業者の見解）

廃油とは、モーター・増速機・制御装置・変圧器等の潤滑油やグリース、絶縁油等を想定しております。

10. 樹木伐採面積の根拠について【平口顧問】（準備書 p. 32）

樹木伐採面積を約4.1haと仮定（p. 32の※³）していますが、その根拠となる数値があればお示しください。

（事業者の見解）

樹木伐採面積（約 4.1ha）は本事業の伐採面積をお示ししており、0.029kg-CO₂/kWh は風力発電所の排出係数の算出には用いておりません。評価書においては温室効果ガス（二酸化炭素）の削減量の算出に当たり、本事業の樹林伐採面積を考慮して算出したことが分かるよう、注釈を分けて記載する等、適切に修正いたします。

11. 風力発電機大型化に伴う渡りルートへの影響について【鈴木伸一顧問】（準備書 p. 34～36）

当該事業は、耐用年数を考慮した既存発電機の建て替え更新として計画されています。しかし、本対象事業区域を含む周辺地域は、初期のものでは2001年から各発電会社の既存発電機が運転されています。現時点の国土地理院地形図には一列に林立した風車の位置と発電所名が示されている、発電機密度の極めて高い地域となっています。さらに隣接する南東側には、最大15万kW・発電機30基の「（仮称）野牛ウィンドファーム事業」が計画されています。

このように当該地域は、発電機の集中による累積的な環境影響が懸念される地域となっています。本事業は発電機の建て替えにより既存の6基から新設4基へと数は減少するものの、ブレード長が79mから最大130m、高さは118mから195mへと発電機の大型化が図られています。他事業でも同様の傾向と思われますので、景観をはじめ、直接的には鳥類やコウモリ類等の飛翔性動物の衝突等の影響が懸念されるところです。本事業区は、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、ヒシクイ、海ワシ類等多くの鳥類の日中渡りルートとなっていますが、これに対するお考え、ご対応についてお聞きいたします。

（事業者の見解）

対象事業実施区域を含む下北半島が、渡り鳥にとっての重要な渡りのルートであることを認識しております。現状では、既設風力発電機が稼働している状況において渡りを確認していることから、渡りの移動経路は確保できていると考えております。なお、リプレースに伴い風力発電機が大きくなりますが、基数が減少することから、風力発電機の周囲を迂回して飛翔するための空間は変わらず確保できていると判断しております。

また、対象事業実施区域の周囲の他事業も含めた下北半島一帯の影響の把握も重要であると思いますが、一方で、累積的な影響の予測範囲が広域となるため、予測手法を確立させる必要があると考えております。今後の動向を踏まえた上で、累積的な影響の予測を検討いたします。

12. 新岩屋・新尻労等の事後調査結果について【阿部部会長】（準備書 p. 35）

岩屋、尻労等の事後調査結果も影響評価の参考になると思いますが、本準備書で掲載されていますか。

（事業者の見解）

「新岩屋・新尻労風力発電事業」は現在工事中であるため、まだ事後調査を実施しておりません。そのため、本準備書では掲載しておりません。なお、撤去済みの「ユーラス岩屋ウインドファーム」及び「ユーラス尻労ウインドファーム」は事後調査を実施しておりません。

13. 表流水の取水地点について【平口顧問】（準備書 p. 128）

表3. 2-9によれば表流水を上水に利用しているようですが、その取水地点及び利用地区が分かれば教えてください。

（事業者の見解）

東通村で表流水を水源としている浄水場は大平滝浄水場であり、取水地点は以下にお示しいたします。なお、対象事業実施区域より 20km 程度離れております。



14. 環境影響評価項目の選定理由の注釈の意図について【近藤顧問】（準備書 p. 201）

表6. 1-5の下注はどのような意図で記載されているのでしょうか。

（事業者の見解）

こちらの注釈は方法書時点（改変面積確定前）から記載しておりました。弊社の他事例の評価書における改変面積は平均で 13. 8ha、最大でも 31. 3ha であり、本事業はリプレイスである事業特性及び発電所の規模を踏まえると、改変面積は他事業より小さくなると考えられます。上記の状況を踏まえ、動物及び生態系の項目については隣接する「新岩屋・新尻労風力発電事業」における調査結果を可能な限り用いて予測及び評価するための補足説明として記載しておりました。しかしながら、混乱を招く可能性があることから、評価書においては削除いたします。

15. 水質予測の基本的な手法について【水鳥顧問】（準備書 p. 217、411）

p. 411の「図8. 1. 2. 1-5 水質予測の手順」には、「⑥予測対象河川等の浮遊物質量を予測」が記載されています。当該事業では、沈砂池からの濁水が河川等まで到達しなかったために実施していないことは承知していますが、基本的な手法の記載としては、このプロセスについても記載していただいた方が、今後のためにも良いと思います。

（事業者の見解）

評価書においては準備書 p. 217 の「表 6. 2-1(13) 調査、予測及び評価の手法（水環境）」の予測の基本的な手法を以下のとおり修正いたします。

【修正案】

「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（建設省都市局都市計画課、1999 年）に基づき、水面積負荷より沈砂池の排水口における排水量及び浮遊物質量を予測した。次に、沈砂池の排水に関して、土壌浸透に必要な距離を、Trimble&Sartz（1957）が提唱した「重要水源地における林道と水流の間の距離」を基に定性的に予測し、沈砂池からの排水が河川へ流入するか否かを推定した。なお、沈砂池からの排水が河川に流入すると推定した場合には、対象となる河川について降雨時調査の結果を踏まえて完全混合モデルにより浮遊物質量を予測することとした。

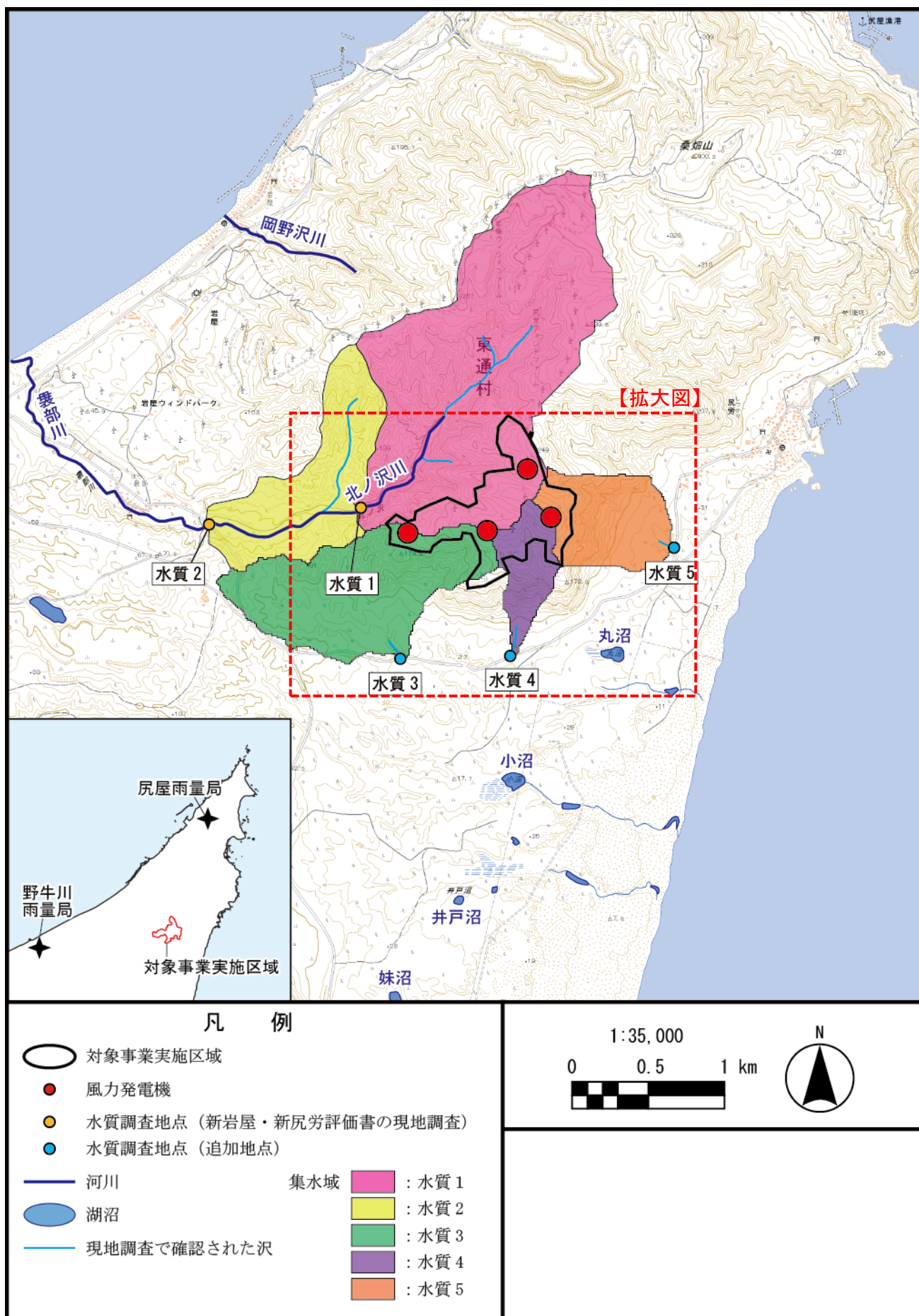
また、集中豪雨的な強雨時の降水量として、最寄りの地域気象観測所等における 10 年確率雨量を用い、沈砂池排水口における排水量及び浮遊物質量を予測した。

16. 水質調査地点③～⑤の現地の詳細について【平口顧問】（準備書 p. 218～219）

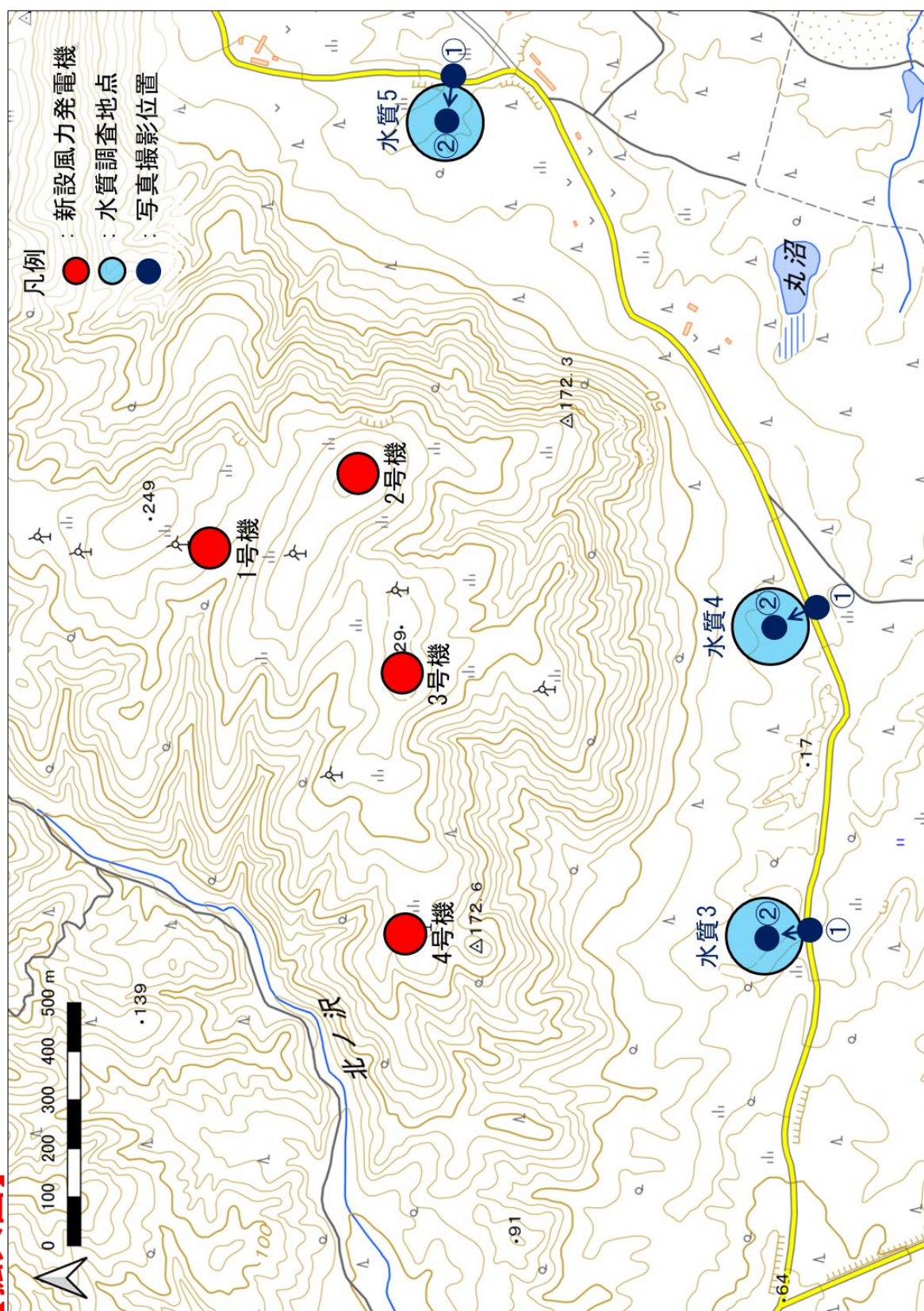
水質調査地点③～⑤を追加していただきありがとうございます。これらの調査地点は地図等にのっていない沢なののでしょうか。また、これらの沢は道路側溝等に流れているとの理解で良いのでしょうか。調査地点の写真や詳細な地図等があると理解しやすいと思います。

（事業者の見解）

水質調査地点③～⑤は国土地理院地図や住宅地図には記載されていない沢でした。なお、いずれの調査地点においても側溝に常時水流を確認しております。調査地点の写真及び地図を以下にお示しいたします。



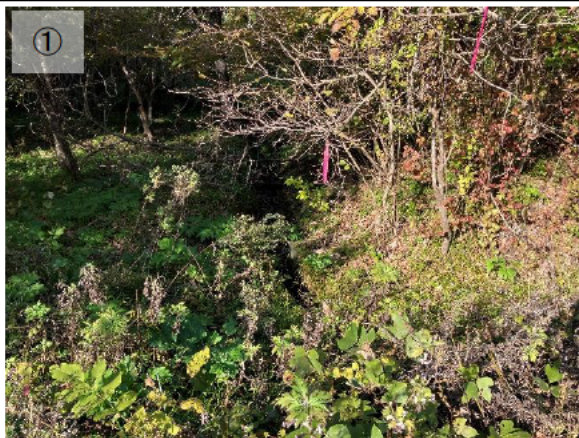
【拡大図】



水質 3



水質 4



水質 5



17. 沈砂池の構造例について【平口顧問】（準備書 p. 410）

図中の数値や文字が読みにくいので、もう少し鮮明な図面を用いてください。

(事業者の見解)

評価書においては沈砂池の構造例の図中の数値や文字を読み取りやすいよう、修正いたします。
また、修正した沈砂池の構造例を以下にお示しいたします。

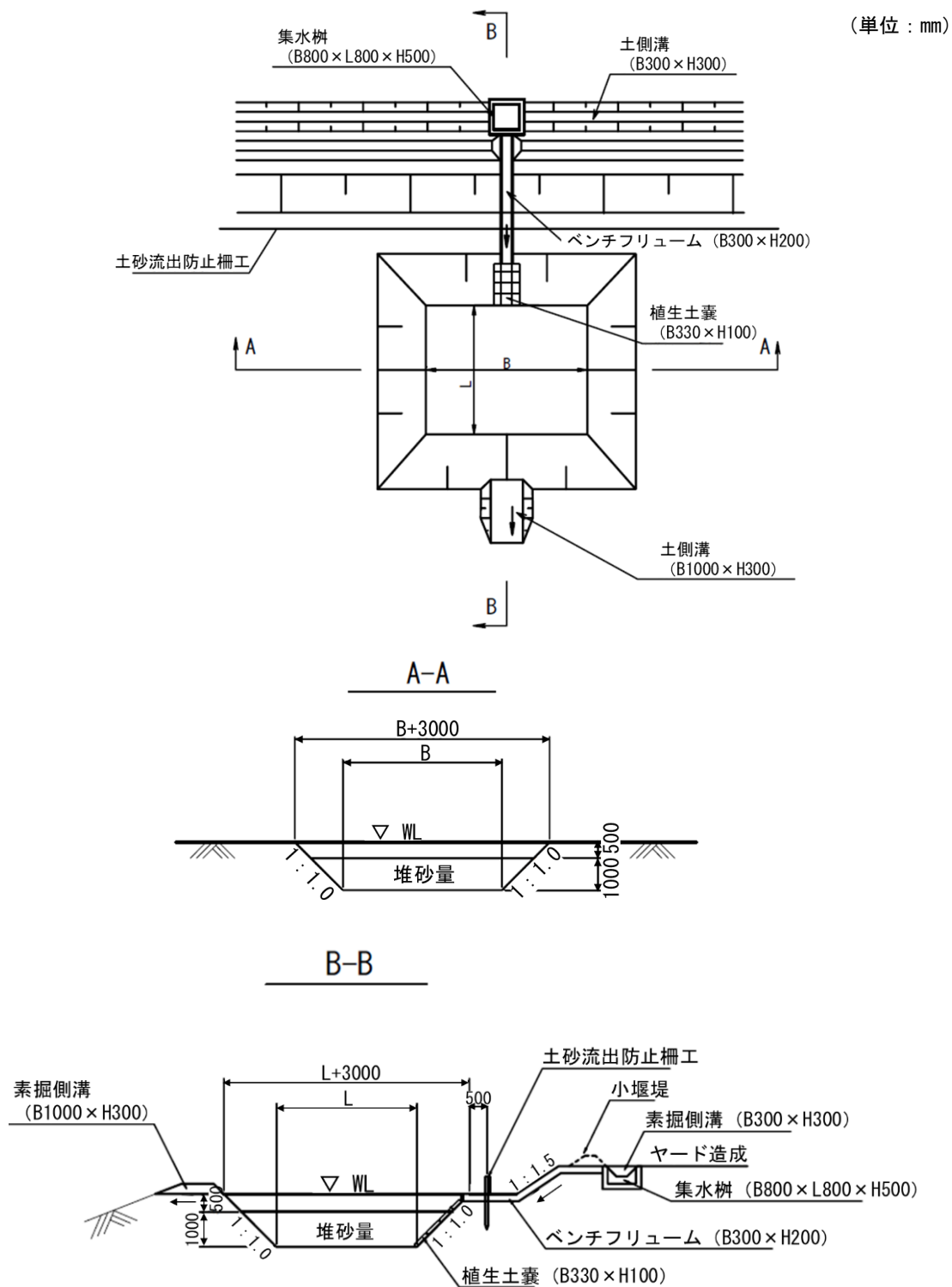


図 8.1.2.1-4(1) 沈砂池の構造例（平面図と断面図）

18. 沈砂池の設計について【水鳥顧問】（準備書 p. 413）

沈砂池面積は、どのような考え方で設計されたか教えてください。

（事業者の見解）

沈砂池面積は、流域面積（集水面積）における地表の状態、降雨強度による雨水流入量及び土砂流出量を設定し、面積規模を設定しております。今後の手続きにおいて、詳細設計を通じて、雨水流入量及び土砂流出量を踏まえ、林地開発許可基準等を参考にしながら必要量を決定いたします。

19. 風車の影の環境保全措置について【近藤顧問】（準備書 p. 438）

「現地において確認した実際の状況に応じて効果的な環境保全措置」とはどのような措置でしょうか。

（事業者の見解）

実際の状況に応じて、カーテンやブラインド等の設置や稼働調整を含めた環境保全措置を検討いたします。

20. 既設風力発電機への苦情・意見について【近藤顧問】（準備書 p. 440）

周辺の既設の他事業を含めてシャドウフリッカーに対する苦情・意見は出ていませんか。

（事業者の見解）

2007 年 12 月にユーラス北野沢ウインドファームの営業運転を開始してから、地域住民の皆様より、風車の影に係る苦情を寄せられたことはございません。なお、風車の影については、既設のユーラス北野沢ウインドファームより影響が大きくなることから、環境影響評価法に基づく住民説明会の他、「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法」に基づく住民説明会を、環境影響評価書公告後から工事着工までの間に実施する予定としております。今後も引き続き、地域住民の皆様に対し、丁寧な説明に努めます。

21. コウモリ類の DNA 鑑定について【阿部部会長】（準備書 p. 508）

コウモリ類の不明種については、DNA鑑定は検討されなかったのでしょうか。

（事業者の見解）

コウモリ類の不明種に対しては、死因がバットストライクであれば種の特定の必要と考えております。しかしながら、腐食が進んだ轢死体についてはバットストライクの可能性は不明であり、対象事業実施区域及びその周囲に生息する種を把握する目的であれば、捕獲調査等の他の調査により代替できると考えております。そのため、死骸の状況を踏まえ、DNA 鑑定を実施していません。

22. 風速階級 1 回当たりのコウモリ類の確認回数について【小島顧問】（準備書 p. 502 及び p. 503 表題）

「風速階級1回当たりのコウモリ類の確認回数」の意味が解りにくいです。バットディテクタで数日間記録されたコウモリ類の確認回数と、その間、10分間毎の平均風速を求め、風速階級毎の総出現回数を、その風速階級が観測された回数で除した値、ということでしょうか。

だとすれば、「各風速階級でのコウモリ類平均確認回数」で良いのではないのでしょうか。

（事業者の見解）

準備書 p. 502 に記載のとおり、各風速におけるコウモリ類の出現回数を実測した 10 分間平均風速の観測回数で除したものを、風速階級 1 回当たりのコウモリ類の確認回数としております。なお、評価書においてはより適切な表題となるよう、記載を検討いたします。

（二次意見）

コウモリ類の確認回数については、評価書においてより適切な表現となるよう検討される、ということで理解いたしました。

（事業者の見解）

評価書においてはより適切な表題となるよう、記載を検討いたします。

23. 既設風力発電機建設前後の変化について【小島顧問】（準備書 p. 898～916）

重要な生物への影響予測ですが、本事業はリプレースとなっていますので、既に旧風車が建っている現在の条件は、影響を受けた結果ということになります。旧風車が出来る前→現在の変化は明らかになっているのでしょうか。

（事業者の見解）

既設風力発電機（ユーラス北野沢ウインドファーム）の建設前には、自主アセスとして 2002 年に事前調査を実施しております。本事業における調査結果との比較を以下にお示しいたします。

なお、「ユーラス北野沢ウインドファーム」における自主アセスでは、哺乳類、鳥類及び植物を調査項目に選定しておりました。また、本事業においては哺乳類の現地調査を実施していないため、隣接する「新岩屋・新尻労風力発電事業」における調査結果（2014 年及び 2016 年）を使用しております。そのため、哺乳類については「ユーラス北野沢ウインドファーム」と「新岩屋・新尻労風力発電事業」の調査結果、鳥類及び植物については「ユーラス北野沢ウインドファーム」と本事業の調査結果（2022～2023 年）の比較をお示ししております。

表 19-1 哺乳類の調査結果比較

No.	目名	科名	種名	ユーラス北野沢 ウインドファーム 調査結果	新岩屋・新尻労 風力発電事業 調査結果
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ		○
2		モグラ	ヒミズ		○
—			モグラ科の一種		●
3	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○
4	ネズミ	リス	ニホンリス	○	○
5		ネズミ	ハタネズミ		○
6			アカネズミ		○
7			ヒメネズミ		○
—			ネズミ科の一種	○	
8	ネコ	クマ	ツキノワグマ		○
9		イヌ	タヌキ	○	○
10			キツネ	○	○
11		イタチ	テン		○
12			アナグマ		○
13	ウシ	ウシ	カモシカ	○	○
合計	5 目	9 科	13 種	6 種	13 種

- 注：1. 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、2022 年）に準拠した。
2. 「～科の一種」のように、種を特定できなかったもので、他の種と重複する可能性がある場合は種数の合計から除外した。ここでは「—」及び「●」が計数しない種に該当する。
3. 本事業においては哺乳類の現地調査を実施していないため、隣接する「新岩屋・新尻労風力発電事業」における調査結果（2014 年及び 2016 年）を使用している。

表 19-2(1) 鳥類の調査結果比較

No.	目名	科名	種名	ユーラス北野沢 ウインドファーム 調査結果	(仮称)北野沢風力 発電事業更新計画 調査結果
1	キジ	キジ	ヤマドリ		○
2			キジ		○
3	カモ	カモ	コクガン		○
4			コハクチョウ		○
5			オオハクチョウ		○
ー			ハクチョウ属の一種		●
6			マガモ		○
7			カルガモ		○
8			ホシハジロ		○
9			スズガモ		○
10			シノリガモ		○
11			ビロードキンクロ		○
12			クロガモ		○
13			ホオジロガモ		○
14			ウミアイサ		○
15	カイツブリ	カイツブリ	アカエリカイツブリ		○
16			ミミカイツブリ		○
17	ハト	ハト	キジバト		○
18			アオバト		○
19	アビ	アビ	アビ		○
20			オオハム		○
ー			アビ科の一種		●
21	ミズナギドリ	アホウドリ	コアホウドリ		○
22	カツオドリ	ウ	ヒメウ		○
23			カワウ		○
24			ウミウ		○
25	ペリカン	サギ	アオサギ		○
26			ダイサギ		○
27	ツル	クイナ	オオバン		○
28	カッコウ	カッコウ	ホトトギス		○
29			ツツドリ		○
30			カッコウ		○
31	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		○
32	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ		○
33			アマツバメ		○
34	チドリ	チドリ	シロチドリ		○
35		シギ	ヤマシギ		○
36			キアシシギ		○
37		カモメ	ミツユビカモメ		○
38			ユリカモメ		○
39			ウミネコ		○
40			カモメ		○
41			ワシカモメ		○
42			シロカモメ		○
43			セグロカモメ		○
44			オオセグロカモメ		○

表 19-2(2) 鳥類の調査結果比較

No.	目名	科名	種名	ユーラス北野沢 ウインドファーム 調査結果	(仮称)北野沢風力 発電事業更新計画 調査結果
45	チドリ	カモメ	ニシセグロカモメ		○
46		トウゾクカモメ	トウゾクカモメ		○
47		ウミスズメ	ケイマフリ		○
48			ウトウ		○
49	タカ	ミサゴ	ミサゴ		○
50		タカ	ハチクマ		○
51			トビ		○
52			オジロワシ		○
53			オオワシ		○
54			チュウヒ		○
55			ハイイロチュウヒ		○
56			ツミ		○
57			ハイタカ		○
58			オオタカ		○
59			サシバ		○
60			ノスリ		○
61			ケアシノスリ		○
62			クマタカ		○
63	フクロウ	フクロウ	フクロウ		○
64	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○
65	キツツキ	キツツキ	アリスイ		○
66			コゲラ	○	○
67			オオアカゲラ		○
68			アカゲラ	○	○
69			アオゲラ		○
70	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○
71			チゴハヤブサ		○
72			ハヤブサ		○
73	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		○
74		カササギヒタキ	サンコウチョウ		○
75		モズ	モズ		○
76		カラス	カケス		○
77			ホシガラス		○
78			ハシボソガラス	○	○
79			ハシブトガラス	○	○
80		キクイタダキ	キクイタダキ		○
81		シジュウカラ	コガラ	○	○
82			ヤマガラ	○	○
83			ヒガラ	○	○
84			シジュウカラ	○	○
85		ヒバリ	ヒバリ		○
86		ツバメ	ショウドウツバメ		○
87			ツバメ		○
88			イワツバメ		○
89		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○
90		ウグイス	ウグイス		○

表 19-2(3) 鳥類の調査結果比較

No.	目名	科名	種名	ユーラス北野沢 ウインドファーム 調査結果	(仮称)北野沢風力 発電事業更新計画 調査結果
91	スズメ	ウグイス	ヤブサメ		○
92		エナガ	エナガ	○	○
93			シマエナガ		○
94		ムシクイ	オオムシクイ		○
95			センダイムシクイ		○
96		メジロ	メジロ		○
97		ヨシキリ	オオヨシキリ		○
98		レンジャク	キレンジャク		○
99			ヒレンジャク		○
—			レンジャク属の一種		●
100		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○
101		ミソサザイ	ミソサザイ	○	○
102		ムクドリ	ムクドリ		○
103			コムクドリ		○
104		カワガラス	カワガラス		○
105		ヒタキ	マミジロ		○
106			トラツグミ		○
107			クロツグミ		○
108			マミチャジナイ		○
109			アカハラ		○
110			ツグミ	○	○
111			コマドリ		○
112			ノゴマ		○
113			コルリ		○
114			ルリビタキ		○
115			ジョウビタキ		○
116			ノビタキ		○
117			イソヒヨドリ		○
118			サメビタキ		○
119			コサメビタキ		○
120			キビタキ		○
121			オオルリ		○
122		イワヒバリ	カヤクグリ		○
123		スズメ	スズメ		○
124		セキレイ	キセキレイ		○
125			ハクセキレイ		○
126			ビンズイ		○
127			タヒバリ		○
128		アトリ	アトリ		○
129			カワラヒワ		○
130			マヒワ	○	○
131			ベニヒワ		○
132			ハギマシコ		○
133			ベニマシコ		○
134			オオマシコ		○
135			イスカ	○	○

表 19-2(4) 鳥類の調査結果比較

No.	目名	科名	種名	ユーラス北野沢 ウインドファーム 調査結果	(仮称) 北野沢風力 発電事業更新計画 調査結果
136	スズメ	アトリ	ウソ		○
137			シメ		○
138			イカル		○
—			アトリ科の一種		●
139		ホオジロ	ホオジロ		○
140			ホオアカ		○
141			カシラダカ		○
142			ノジコ		○
143			アオジ		○
144			クロジ		○
145			オオジュリン		○
—		—	スズメ目の一種		●
146	ハト	ハト	カワラバト		○
合計	19 目	48 科	146 種	15 種	146 種

- 注：1. 種名及び配列については、原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、2012 年）に準拠した。
2. 「～科の一種」「～属の一種」としたもののうち、同一分類群の他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。ここでは「-」及び「●」が計数しない種に該当する。

表 19-3 植物の調査結果比較（重要な種のみ）

No.	科名	種名	ユーラス北野沢 ウインドファーム 調査結果	(仮称) 北野沢風力 発電事業更新計画 調査結果
1	チャセンシダ	チャセンシダ		○
2	ラン	エビネ		○
3		ナツエビネ		○
4		サルメンエビネ		○
—		エビネ属の一種	○	●
5		クマガイソウ		○
6	ボタン	ヤマシャクヤク		○
—		ボタン属の一種		●
7	ムラサキ	ムラサキ		○
合計	4 科	7 種	1 種	7 種

- 注：1. 種名及び配列については原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、2022 年）に準拠した。
2. 「～属の一種」としたもののうち、同一分類群の他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。ここでは「-」及び「●」が計数しない種に該当する。

（二次意見）

旧風車が出る前の状況として、ユーラス北野沢ウインドファーム建設前の自主アセスとしての事前調査と、本事業における調査結果との比較表について理解いたしました。

（事業者の見解）

ご理解いただきまして、ありがとうございます。

24. 重要な両生類への影響予測について【岩田顧問】（準備書 p. 898）

重要な両生類への影響予測において「本種は対象事業実施区域内で確認されなかった」との記述がありますが、両生類の影響評価は「新岩屋・新尻労評価書の現地調査」に基づいており本事業実施区域については一部でしか現地調査が行われていないこと、現地調査を行なわなかった根拠が「新岩屋・新尻労の調査範囲と連続した類似環境」であることを考慮すると、適切ではないのではないのでしょうか。

（事業者の見解）

両生類において、「新岩屋・新尻労風力発電事業」における調査結果を使用していることから、準備書 p. 898 の「表 8.1.4-94 重要な両生類への影響予測（トウホクサンショウウオ）」に記載の『本種は対象事業実施区域内で確認されなかった』は適切ではございませんでした。そのため、評価書においては記載を修正いたします。しかしながら、同表に記載のとおり、本種の生息環境である樹林の改変面積は限られること、各環境保全措置を講じることから、事業実施に伴う影響は小さいものと予測しております。

25. 重要な群落と現存植生図の重ね合わせ図について【鈴木伸一顧問】（準備書 p. 948～949）

重要な群落の基準として、植生自然度9以上の植生を取り上げているのは評価できます。しかし、「図8.1.5-6 重要な群落の分布位置」に図示されているのは、方法書で示された環境省植生図のものとなっています。本文中に引用が示されていますが、現地調査の結果方法書で引用した既存植生図とは異なることが確認されたのですから、当該の対象事業実施区域の現状は引用資料とは異なることを示しておかないと、誤解が生じる恐れがあると考えます。

（事業者の見解）

準備書 p. 944～951 は、「③重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況」のうち、「a. 文献その他の資料調査」の内容となっております。そのため、準備書 p. 949 の「図 8.1.5-6 重要な群落の分布位置」についても、文献その他の資料（方法書で示した環境省の現存植生図）を引用したものとなっております。一方で、現地調査の結果については準備書 p. 952～957 の「b. 現地調査」、現地調査において確認した重要な群落については、「図 8.1.5-9 重要な群落の確認位置」にお示ししております。

なお、図 8.1.5-6 について、文献その他の資料による調査の結果であることが明確となるよう、評価書においては図題を「図 8.1.5-6 文献その他の資料による重要な群落の分布位置」に修正いたします。

26. エゾイタヤ群落の判定基準について【阿部部会長】（準備書 p. 956）

p. 949を見ると、風車の位置が植生自然度9のエゾイタヤシナノキ群集に重なっているように見えます。当該地点を代償植生のエゾイタヤ群落と判断した理由については、述べておいた方が良いと思います。

（事業者の見解）

対象事業実施区域及びその周囲の航空写真（1940 年代後半～1950 年代前半頃）を確認したところ、「エゾイタヤ群落」がある場所は当時、草地（放牧地あるいは牧草地）として利用されていたと考えられます。この場所は過去に伐採された経緯があり、70 年程度経過しているものの、自然植生としては完全ではないため植生自然度 8 として整理しております。また、対象事業実施区域の南側で確認された、植生自然度 9 の「エゾイタヤシナノキ群集」と区別するため、群落名を「エゾイタヤ群落」として整理しております。

評価書においては「代償植生のエゾイタヤ群落」と判断した理由について記載いたします。

（二次意見）

国土地理院の 1960 年代の空中写真を見ると、確かに樹冠のない草原のような状況が判読できます。エゾイタヤ群落が草原から再生してきた代償群落であることの参照情報として評価書に掲載する方が良いと思います。

（事業者の見解）

評価書においては「代償植生のエゾイタヤ群落」と判断した理由の参照情報として航空写真を記載いたします。

27. 既設風力発電機によるクマタカの行動への影響について【阿部部会長】（準備書 p. 1017）

クマタカの高利用域として抽出した範囲の中に既設の風車が多数存在するようですが、クマタカの行動等への影響はなかったのでしょうか。そのことはどこかに記載されていますか。

（事業者の見解）

高利用域は通常円状の広がりが見られますが、既設風力発電機が存在により、対象事業実施区域より西側の行動が制限されていたと考えられます。一方で、既設風力発電機の間を飛翔する姿を確認していること、さらには風力発電機が稼働している状況でも営巣・繁殖に成功していることから、高利用域に既設風力発電機が存在していることによる影響は小さいと考えております。

クマタカの行動圏の内部構造への影響については、準備書 p. 1034 の「8. 1. 6 生態系 エ. 予測結果」に記載しております。

28. 既設風力発電機の近傍での採餌について【阿部部会長】（準備書 p. 1019～1020）

既設風車の近傍で採餌環境の適合性が高いのはどのような理由でしょうか。高利用域の採餌適地に風車が建っていて、大きな問題は起こっていないのでしょうか。

（事業者の見解）

準備書 p. 1018 の「表 8.1.6-18 クマタカの採餌に関する環境要因の寄与度」のとおり、クマタカの採餌に影響を与える環境要因のうち、地面の傾斜角、針葉樹林面積、既設風力発電機からの距離が特に寄与度が高い結果となっております。そのため、既設風力発電機の周囲で急斜面や針葉樹林が広がっている場所では、採餌環境の適合性が高いことが把握できます。

一方で、営巣地の周囲にも採餌環境の適合性が高い範囲が広がっていること、既設風力発電機の間を飛翔するクマタカを確認していることから、高利用域の採餌適地において既設風力発電機の影響は小さいと考えております。

（二次意見）

既設風車で大きな問題が起こっていなかったことは分かりました。なぜ、風車から近いところでクマタカの採餌行動が増えているのかは考察が必要と思います。

（事業者の見解）

「新岩屋・新尻労風力発電事業」における調査結果（2014～2016 年）では、クマタカの繁殖が確認されなかったため、採餌行動が少なかったと考えられます。一方、本事業における現地調査では、営巣地が確認でき、繁殖にも成功したことで、観察事例も増え、採餌行動も多く確認できたと考えております。また、対象事業実施区域及びその周囲は元々牧草地が広がっていましたが、年月の経過とともに、植生の遷移により樹林化が進み、既設風力発電機の周囲の山腹においても樹木の生長に伴い、クマタカの採餌に適した環境が整いつつある可能性がございます。

29. 既設風力発電機によるカラ類への影響について【阿部部会長】（準備書 p. 1029～1030）

カラ類は既設の風車周辺にテリトリーを構えているように見えますが、稼働や定検等の影響はないのでしょうか。

（事業者の見解）

既設風力発電機が稼働している状況及び定期点検を実施している状況において、既設風力発電機の周囲でテリトリーが確認できていることから、稼働及び定期点検による影響は小さいと考えております。

30. フォトモンタージュに用いた写真について【阿部部会長】（準備書 p. 1053）

不可視なので問題ないとは思いますが、空が露出オーバーで白飛びしている写真は、あまりフォトモンタージュには向かないと思います。

（事業者の見解）

空が露出オーバーで白飛びした写真とならないよう、今後の調査の際には注意いたします。また、評価書においては「③畜産飼料展示館」の写真を差し替えます。

31. 現況と完成後のフォトモンタージュに用いた写真の違いについて【阿部部会長】（準備書 p. 1056）

現況と完成後で空の色が異なる写真を使っているのはなぜでしょうか。

（事業者の見解）

「⑥襲部地区」については、実際の気象条件においては風力発電機と背景のコントラストが出にくい状況であったため、風力発電機の位置や大きさがより判別しやすくなるよう、フォトモンタージュについては、上空部分に画像処理を行いました。

なお、【現況】については、実際の気象条件及び既設風力発電機の見え方をお示しするため、画像処理は実施しておりません。

（二次意見）

上空部分に画像処理を行なった点とその理由については、付記しておくべきと思います。

（事業者の見解）

評価書においては【完成後】の写真は風力発電機の位置や大きさがより判別しやすくなるよう、上空部分に画像処理を行った旨を記載いたします。

32. 死骸サンプルのDNA解析について【阿部部会長】（準備書 p. 1106）

事後調査計画の中にすでに記載されていますが、死骸サンプルについては極力DNA解析を行なって種（もしくは配列の近似な種）を同定するようにしてください。

（事業者の見解）

準備書 p. 1106「表 8.2-1(2) 事後調査計画」に記載のとおり、死骸等を確認し、種名の同定が不可能な場合は、DNA解析の実施を検討いたします。

33. 植生調査票の表記について【鈴木伸一顧問】（準備書資-19～50）

- ①階層の表記がローマ数字とドイツ語の略式表記の2種類で示されていますが、種名とその被度・群度の欄にはドイツ語が使われています。また、群落組成表は算用数字が使われていますので、統一性を欠いています。すべてドイツ語表記で統一してください（最近英語の略称が一般的ですが）。
- ②各階層の樹高と植被率ですが、種が存在していない階層の「0」表記は、却って紛らわしいので不要です。

（事業者の見解）

- ①評価書においては植生調査票及び群落組成表の階層表記をドイツ語表記に統一いたします。
- ②種が存在していない階層については、樹高と被覆率の表記を「－」に修正いたします。

34. 群落組成表（森林植生）について【鈴木伸一顧問】（準備書資-62～79）

表番号がすべて表2-6でそれらが(1)～(3)に分けられているので、ジュウモンジシダーサワグルミ群集から伐採跡地群落までを一つの表にして区分したものを3分割して示したものだと思います。すべての調査資料を比較して区分しているので、正しく丁寧な対応がなされていると評価できます。ただ、資料として示す場合は、その結果を見やすくわかりやすい状態で示していただきたいと思います。(1)～(3)の表をそれぞれ独立したものとしてまとめているか、全体表をそのまま示すか、どちらかにしてください。(1)～(3)の各表は、種の並び順が同じですので、各表だけで見たときに群落区分の結果が分かりません。それぞれの表で種順が異なっても良いので、分かりやすくまとめてください。また、全体を一つの表で示すときには、列間を詰めて横向きか、見開きで示す等の工夫をしてください。

「ブナーミズナラ群落とオオバクロモジミズナラ群集の共通種」ですが、他にもオオカメノキ、ツルアジサイ、ツタウルシマイヅルソウがあげられます。また、ススキが下位単位として扱われていますが、何の下位単位か基準が分かりませんが、表を見る限りではヤマカモジグサーカシワ群集の区分種としてあげられます。同群集の特徴として林床にススキを含むススキクラスの種を伴うカシワ林であることが示されています。

（事業者の見解）

群落組成表について、資料として見やすくなるよう示し方を工夫する等、評価書においては適切に修正いたします。

35. 騒音及び超低周波音、振動の調査地点について（非公開）【経済産業省チェックリスト No. 15】

大気質、騒音及び超低周波音、振動の調査地点について、住宅、道路、測定場所の関係がわかる大縮尺の図（500分の1～2500分の1程度）と測定環境の状況が分かる現地写真は記載されているか。【調査地点の妥当性を検討するため】

（事業者の見解）

騒音及び超低周波音、振動の調査地点の大縮尺図及び現地写真を以下にお示しいたします。

【騒音及び超低周波音調査地点（騒音 1）】

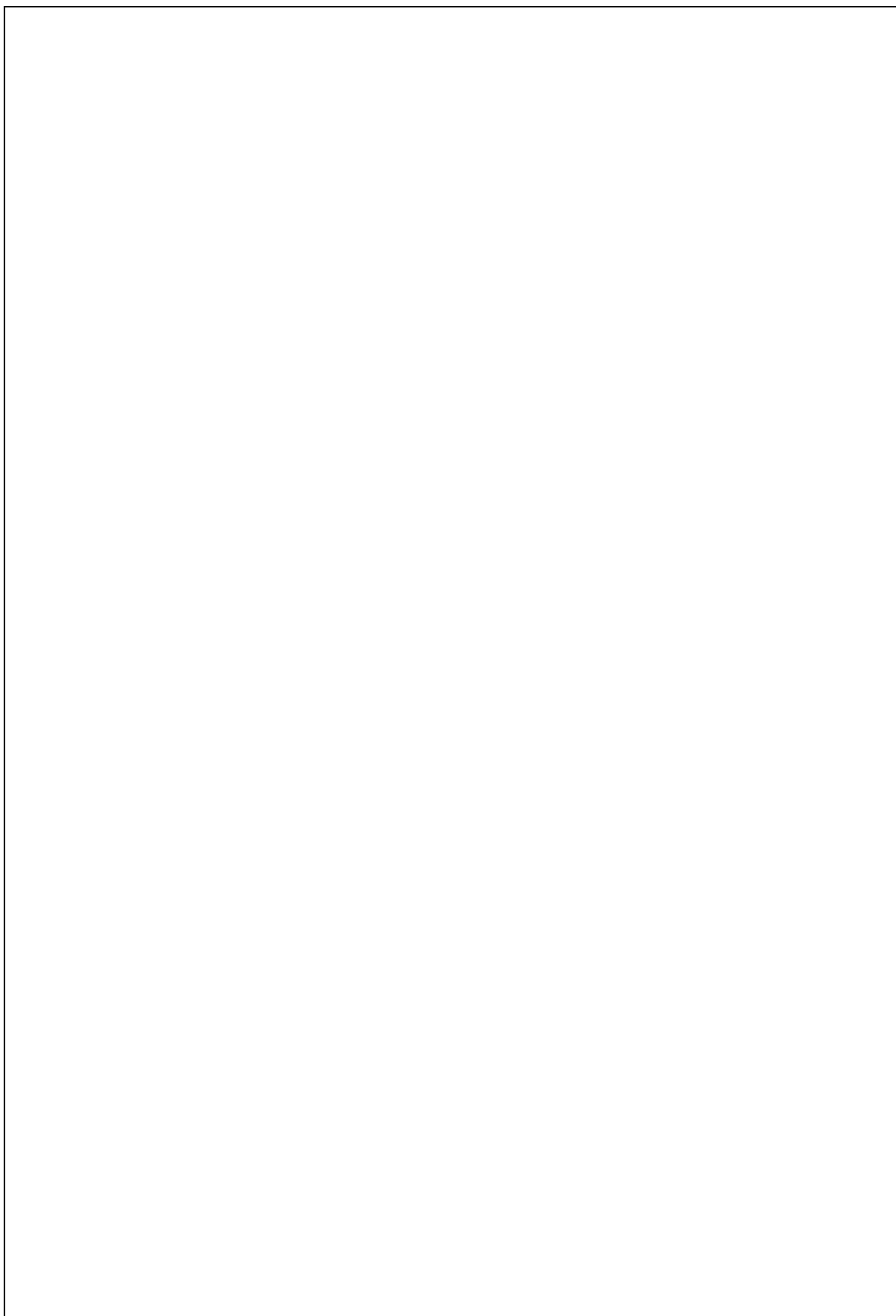


図 31-1 (1) 騒音及び超低周波音調査地点（非公開）

【騒音及び超低周波音調査地点（騒音 2）】

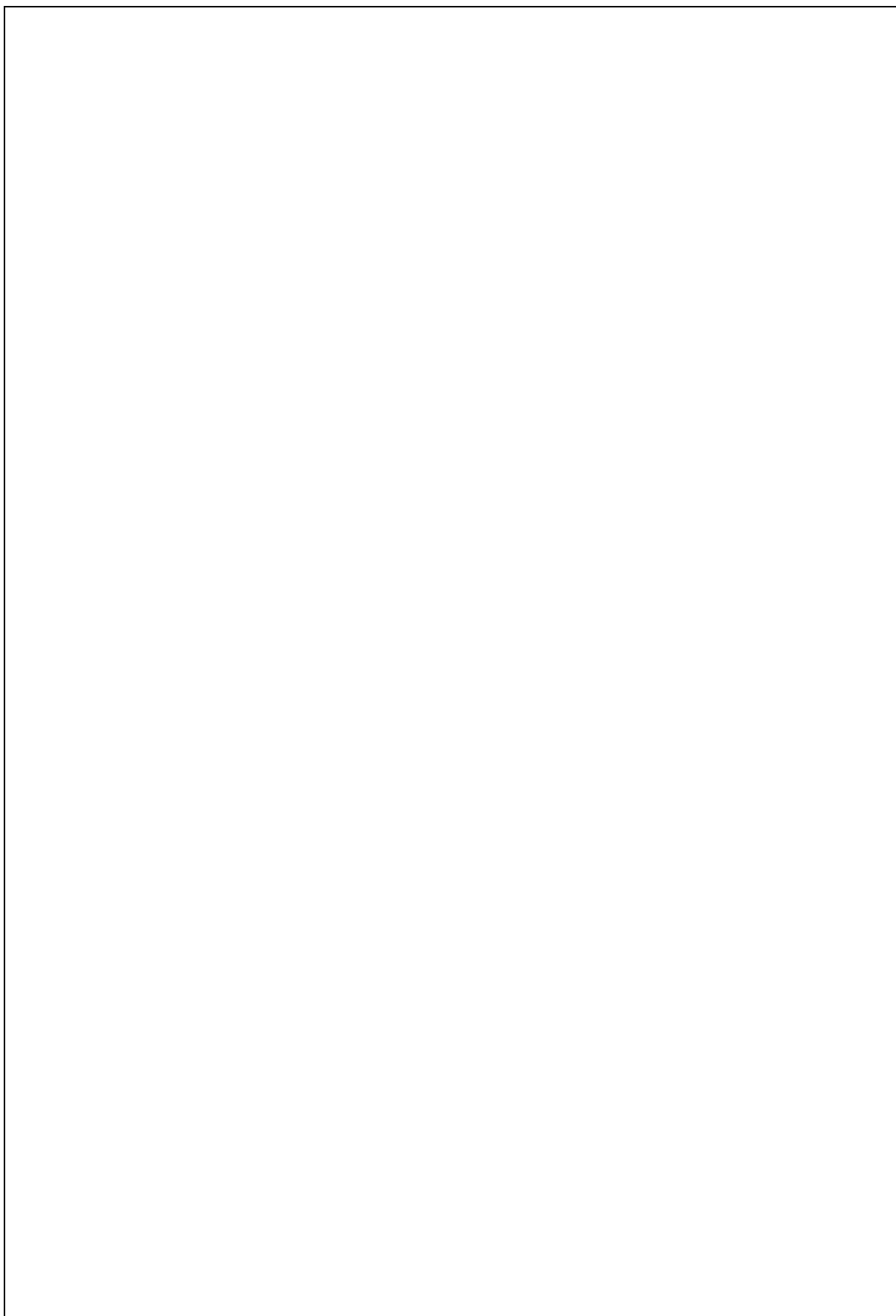


図 31-1 (2) 騒音及び超低周波音調査地点（非公開）

【騒音及び超低周波音調査地点（騒音 3）】

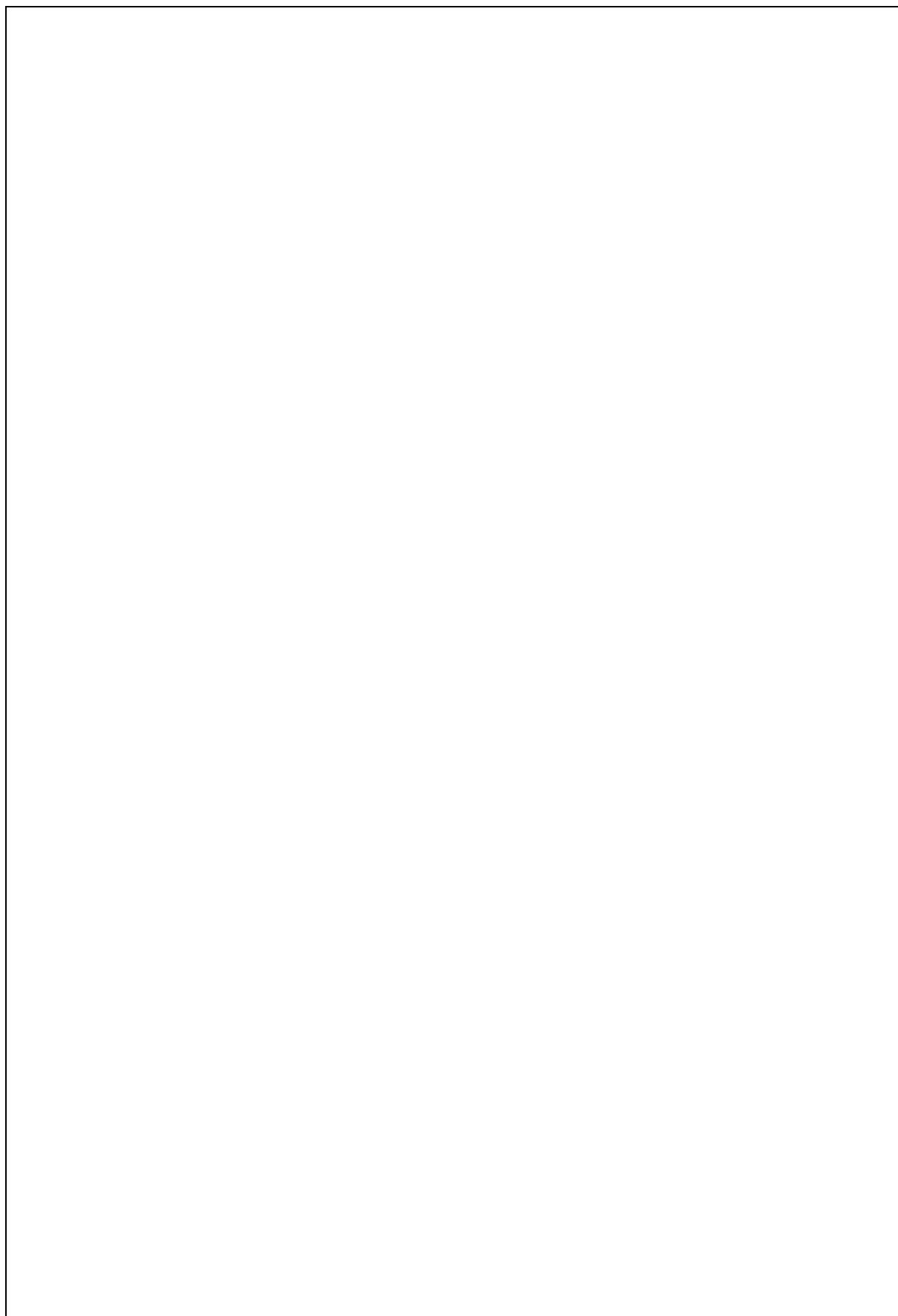


図 31-1 (3) 騒音及び超低周波音調査地点（非公開）

【道路交通騒音、振動、交通量調査地点（沿道）】

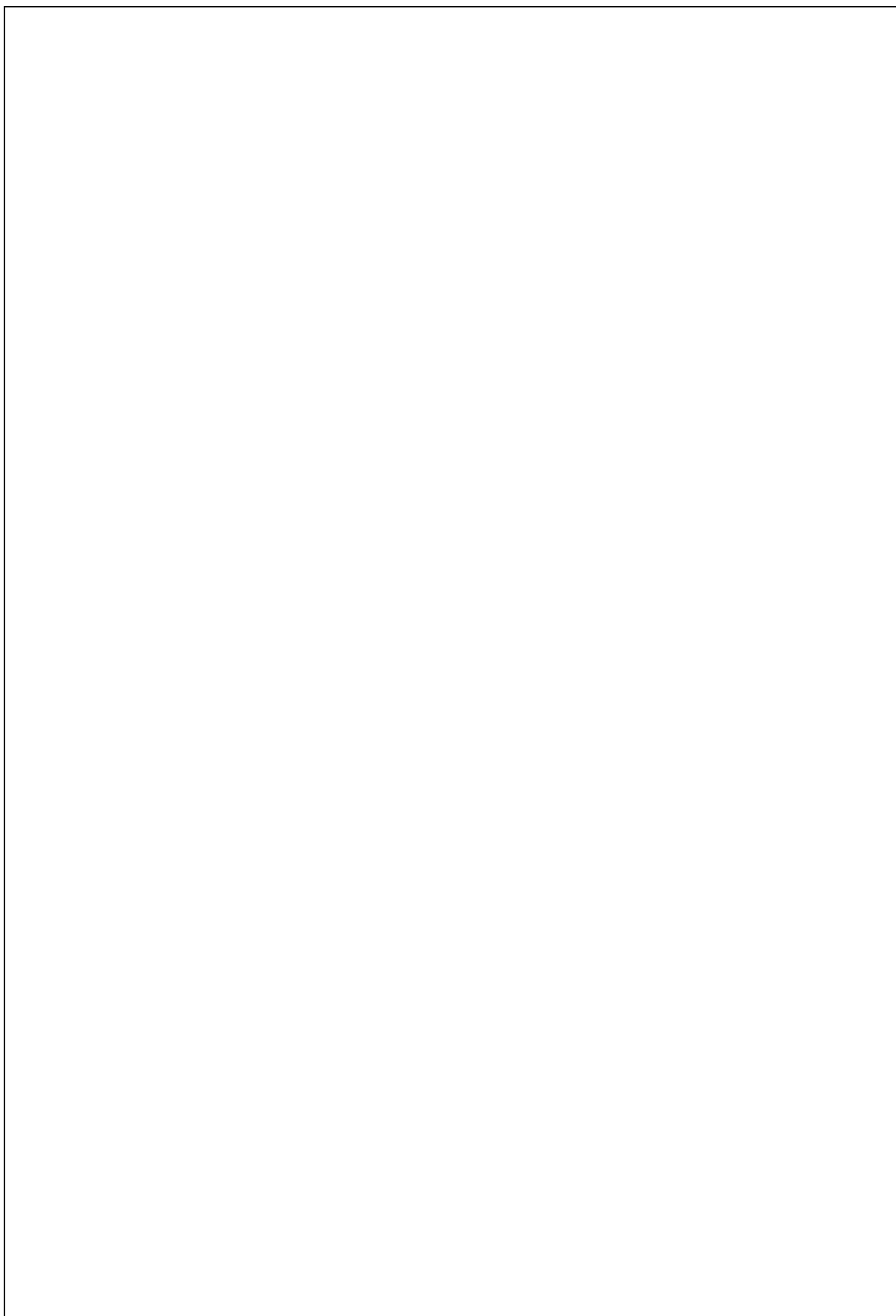


図 31-2 道路交通騒音、振動、交通量調査地点（非公開）

表 31-1 現地写真（非公開）

騒音及び超低周波音調査地点（騒音 1）	騒音及び超低周波音調査地点（騒音 2）
騒音及び超低周波音調査地点（騒音 3）	道路交通騒音、振動、交通量調査地点（沿道）

※個人情報が特定されてしまう可能性があるため、非公開といたします。

36. 施設の稼働に伴う騒音の寄与値算出に伴う減衰項について【経済産業省チェックリスト No. 38】

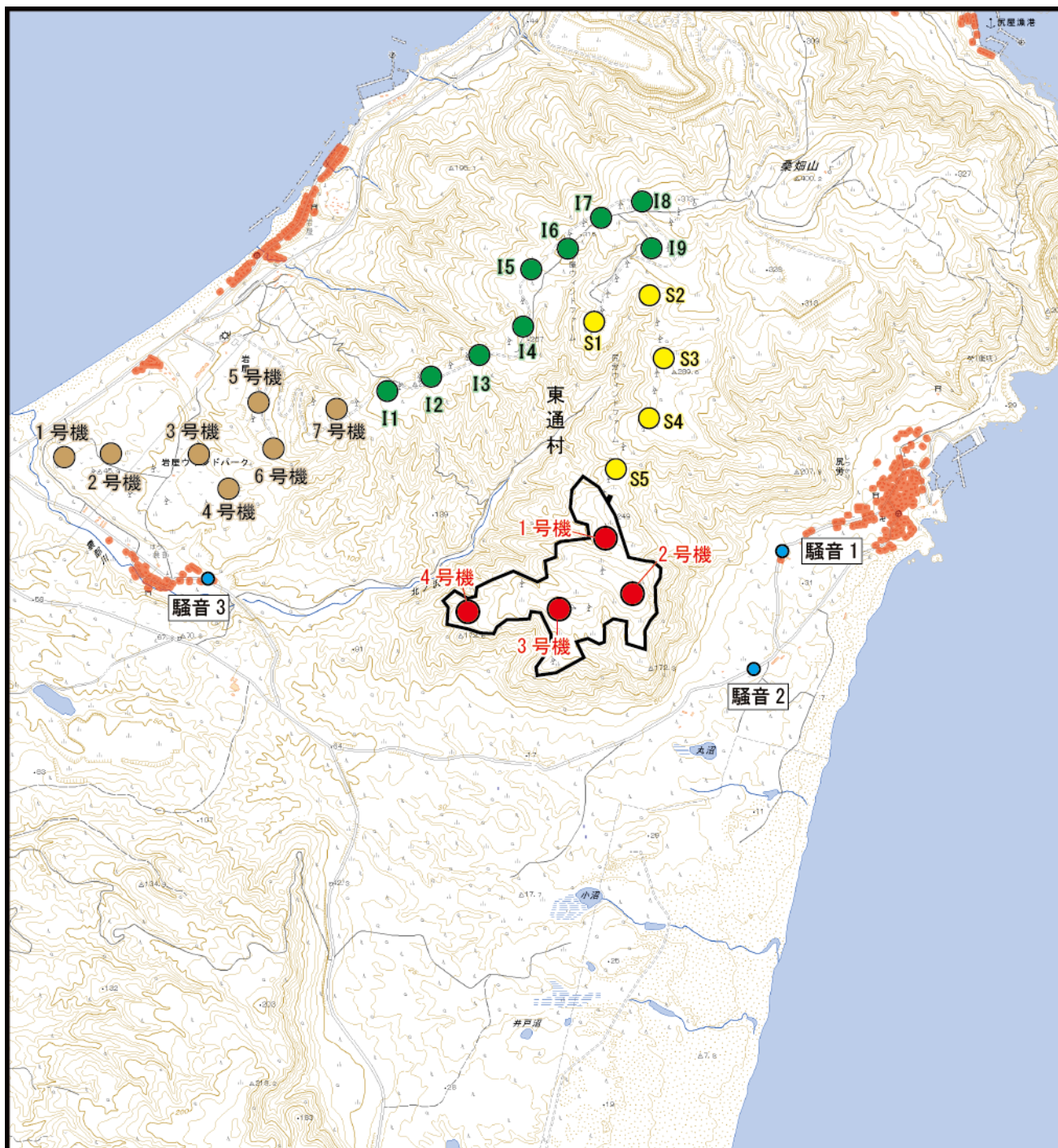
予測計算の妥当性を確認するために、風力発電機の寄与値のみではなく、寄与値を算出する過程で考慮された個々の減衰項について予測値が示されているか。【予測計算の妥当性を確認するため】

（事業者の見解）

騒音予測の計算式は、「屋外における音の伝搬減衰—一般的計算方法」（ISO 9613-2）を用いて、風力発電機からの騒音レベルの寄与値を算出いたしました。

伝搬の過程については、準備書に記載のとおり、騒音については、音源からの距離による減衰に加え、空気の吸収による減衰、地形の回折による減衰及び地表面の影響による減衰を考慮した上で、各風力発電機から発生する騒音レベルの寄与値を計算し、合成しております。超低周波音については、音源からの距離による減衰を考慮した上で、各風力発電機から発生する超低周波音レベル（G 特性音圧レベル）の寄与値を計算し、合成しております。

下図に本事業及び他事業の新設風力発電機の配置、表 32-1 に超低周波音（G 特性）レベルの減衰項ごとの伝搬減衰量、表 32-2～表 32-5 に騒音レベルの累積的な影響を予測した本事業及び他事業の減衰項ごとの伝搬減衰量をお示しいたします。



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機
-  (仮称) 新岩屋風力発電事業
-  (仮称) 新尻労風力発電事業
-  新岩屋ウィンドパーク事業
-  騒音・超低周波音調査地点
-  住宅等

1:35,000

0 0.5 1 km



表 32-1 (1) 風速 10m/s における G 特性音圧レベルの伝搬減衰量

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力 発電機	パワー レベル (dB)	半自由 空間補正 (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	音圧 レベル (dB)
騒音 1	65.0	1 号機	128.4	3.0	1055.78	-71.5	0.0	0.0	0.0	60.0
		2 号機	128.4	3.0	949.95	-70.5	0.0	0.0	0.0	60.9
		3 号機	128.4	3.0	1350.42	-73.6	0.0	0.0	0.0	57.8
		4 号機	128.4	3.0	1841.56	-76.3	0.0	0.0	0.0	55.1

表 32-1 (2) 風速 10m/s における G 特性音圧レベルの伝搬減衰量

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力 発電機	パワー レベル (dB)	半自由 空間補正 (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	音圧 レベル (dB)
騒音 2	65.2	1 号機	128.4	3.0	1179.49	-72.4	0.0	0.0	0.0	59.0
		2 号機	128.4	3.0	893.36	-70.0	0.0	0.0	0.0	61.4
		3 号機	128.4	3.0	1214.37	-72.7	0.0	0.0	0.0	58.8
		4 号機	128.4	3.0	1692.81	-75.6	0.0	0.0	0.0	55.9

表 32-1 (3) 風速 10m/s における G 特性音圧レベルの伝搬減衰量

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力 発電機	パワー レベル (dB)	半自由 空間補正 (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	音圧 レベル (dB)
騒音 3	60.6	1 号機	128.4	3.0	2291.98	-78.2	0.0	0.0	0.0	53.2
		2 号機	128.4	3.0	2437.74	-78.7	0.0	0.0	0.0	52.7
		3 号機	128.4	3.0	2029.50	-77.1	0.0	0.0	0.0	54.3
		4 号機	128.4	3.0	1517.32	-74.6	0.0	0.0	0.0	56.8

表 32-2(1) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（秋季調査時の気象条件・昼間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 1	13. 3	新岩屋 WP	1 号機	103. 1	4110. 07	-83. 3	4. 1	-15. 8	-6. 9	1. 3	
			2 号機	103. 1	3850. 74	-82. 7	4. 0	-17. 0	-6. 1	1. 2	
			3 号機	103. 1	3358. 03	-81. 5	3. 7	-14. 6	-6. 5	4. 2	
			4 号機	103. 1	3165. 19	-81. 0	3. 5	-19. 1	-4. 9	1. 7	
			5 号機	103. 1	3091. 70	-80. 8	3. 5	-13. 3	-6. 7	5. 8	
			6 号機	103. 1	2949. 22	-80. 4	3. 4	-15. 4	-5. 7	5. 1	
			7 号機	103. 1	2663. 64	-79. 5	3. 1	-9. 9	-8. 0	8. 9	
	30. 3	新岩屋	I1	98. 5	2432. 71	-78. 7	3. 0	-8. 0	-4. 8	10. 0	
			I2	98. 5	2243. 48	-78. 0	3. 0	-7. 9	-4. 6	11. 0	
			I3	98. 5	2064. 84	-77. 3	3. 0	-8. 6	-4. 0	11. 6	
			I4	98. 5	1969. 31	-76. 9	3. 0	-12. 3	-2. 9	9. 3	
			I5	98. 5	2164. 14	-77. 7	3. 0	-15. 8	-2. 7	5. 3	
			I6	98. 5	2129. 71	-77. 6	3. 0	-15. 1	-2. 7	6. 1	
			I7	98. 5	2180. 31	-77. 8	3. 0	-11. 4	-3. 4	8. 9	
			I8	98. 5	2169. 84	-77. 7	3. 0	-11. 2	-3. 4	9. 2	
			I9	98. 5	1903. 58	-76. 6	3. 0	-12. 0	-2. 9	10. 0	
		新尻労	S1	98. 5	1712. 89	-75. 7	3. 0	-15. 7	-2. 3	7. 8	
			S2	98. 5	1665. 63	-75. 4	3. 0	-12. 8	-2. 5	10. 7	
			S3	98. 5	1325. 67	-73. 4	3. 0	-10. 0	-2. 5	15. 6	
			S4	98. 5	1117. 20	-72. 0	3. 0	-0. 3	-3. 0	26. 3	
			S5	98. 5	1085. 85	-71. 7	3. 0	0	-2. 7	27. 1	
		32. 6	北野沢 WF (新設)	1 号機	102. 3	1055. 78	-71. 5	3. 0	0	-5. 1	28. 7
				2 号機	102. 3	949. 95	-70. 5	3. 0	0	-4. 8	29. 9
				3 号機	102. 3	1350. 42	-73. 6	3. 0	-7. 8	-5. 8	18. 1
				4 号機	102. 3	1841. 56	-76. 3	3. 0	-11. 7	-4. 6	12. 7

表 32-2 (2) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（秋季調査時の気象条件・昼間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)
騒音 2	11.4	新岩屋 WP	1 号機	103.1	4106.73	-83.3	4.1	-15.5	-7.0	1.5
			2 号機	103.1	3861.08	-82.7	4.0	-16.4	-6.4	1.6
			3 号機	103.1	3391.32	-81.6	3.7	-17.4	-5.6	2.3
			4 号機	103.1	3166.80	-81.0	3.5	-18.3	-5.1	2.3
			5 号機	103.1	3207.04	-81.1	3.6	-20.7	-4.6	0.3
			6 号機	103.1	3015.81	-80.6	3.4	-17.8	-5.0	3.1
			7 号機	103.1	2811.90	-80.0	3.2	-13.6	-6.3	6.5
	27.9	新岩屋	I1	98.5	2637.25	-79.4	3.0	-10.8	-4.0	7.3
			I2	98.5	2501.90	-79.0	3.0	-9.0	-4.4	9.1
			I3	98.5	2394.88	-78.6	3.0	-8.9	-4.4	9.7
			I4	98.5	2375.96	-78.5	3.0	-7.8	-4.8	10.4
			I5	98.5	2627.89	-79.4	3.0	-7.8	-5.2	9.2
			I6	98.5	2642.01	-79.4	3.0	-7.8	-5.2	9.1
			I7	98.5	2737.28	-79.7	3.0	-7.8	-5.3	8.7
			I8	98.5	2764.70	-79.8	3.0	-7.8	-5.4	8.5
			I9	98.5	2492.78	-78.9	3.0	-7.8	-5.0	9.8
		新尻労	S1	98.5	2204.49	-77.9	3.0	-7.8	-4.6	11.3
			S2	98.5	2235.65	-78.0	3.0	-7.8	-4.6	11.1
			S3	98.5	1876.34	-76.5	3.0	-1.0	-5.2	18.8
			S4	98.5	1588.89	-75.0	3.0	0	-3.6	22.9
			S5	98.5	1416.05	-74.0	3.0	0	-3.3	24.1
		北野沢 WF (新設)	1 号機	102.3	1179.49	-72.4	3.0	0	-5.4	27.5
			2 号機	102.3	893.36	-70.0	3.0	0	-4.6	30.6
			3 号機	102.3	1214.37	-72.7	3.0	-0.3	-6.1	26.3
			4 号機	102.3	1692.81	-75.6	3.0	-10.1	-5.1	14.6

表 32-2 (3) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（秋季調査時の気象条件・昼間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)
騒音 3	35.2	新岩屋 WP	1 号機	103.1	1062.64	-71.5	3.0	0	-6.1	28.5
			2 号機	103.1	894.02	-70.0	3.0	-0.2	-5.8	30.1
			3 号機	103.1	708.86	-68.0	3.0	-7.8	-4.6	25.7
			4 号機	103.1	531.57	-65.5	3.0	-7.6	-3.9	29.1
			5 号機	103.1	1043.17	-71.4	3.0	-10.3	-4.7	19.8
			6 号機	103.1	835.98	-69.4	3.0	-8.2	-5.0	23.6
			7 号機	103.1	1226.41	-72.8	3.0	-7.8	-6.5	19.1
	22.1	新岩屋	I1	98.5	1495.70	-74.5	3.0	-7.8	-3.5	15.8
			I2	98.5	1730.82	-75.8	3.0	-7.8	-3.8	14.1
			I3	98.5	2013.34	-77.1	3.0	-7.8	-4.3	12.4
			I4	98.5	2311.52	-78.3	3.0	-7.8	-4.7	10.7
			I5	98.5	2559.71	-79.2	3.0	-7.8	-5.1	9.5
			I6	98.5	2792.29	-79.9	3.0	-7.8	-5.4	8.4
			I7	98.5	3049.71	-80.7	3.2	-7.9	-5.7	7.3
			I8	98.5	3286.48	-81.3	3.4	-8.1	-6.0	6.4
			I9	98.5	3159.65	-81.0	3.3	-8.0	-5.9	6.9
		新尻労	S1	98.5	2652.97	-79.5	3.0	-7.8	-5.2	9.0
			S2	98.5	2995.99	-80.5	3.0	-7.8	-5.7	7.5
			S3	98.5	2893.55	-80.2	3.0	-7.8	-5.5	8.0
			S4	98.5	2685.89	-79.6	3.0	-7.8	-5.3	8.9
			S5	98.5	2413.84	-78.6	3.0	-7.8	-4.9	10.2
	25.9	北野沢 WF (新設)	1 号機	102.3	2291.98	-78.2	3.0	-2.9	-11.5	12.7
			2 号機	102.3	2437.74	-78.7	3.0	-7.7	-7.8	11.1
			3 号機	102.3	2029.50	-77.1	3.0	-0.4	-8.5	19.2
			4 号機	102.3	1517.32	-74.6	3.0	0	-6.2	24.4

表 32-3(1) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（秋季調査時の気象条件・夜間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 1	13. 6	新岩屋 WP	1 号機	103. 1	4110. 07	-83. 3	4. 1	-15. 8	-6. 6	1. 6	
			2 号機	103. 1	3850. 74	-82. 7	4. 0	-17. 1	-5. 8	1. 5	
			3 号機	103. 1	3358. 03	-81. 5	3. 7	-14. 6	-6. 2	4. 4	
			4 号機	103. 1	3165. 19	-81. 0	3. 5	-19. 1	-4. 7	1. 9	
			5 号機	103. 1	3091. 70	-80. 8	3. 5	-13. 3	-6. 5	6. 1	
			6 号機	103. 1	2949. 22	-80. 4	3. 4	-15. 4	-5. 4	5. 3	
			7 号機	103. 1	2663. 64	-79. 5	3. 1	-9. 9	-7. 8	9. 1	
	30. 4	新岩屋	I1	98. 5	2432. 71	-78. 7	3. 0	-8. 0	-4. 5	10. 2	
			I2	98. 5	2243. 48	-78. 0	3. 0	-7. 9	-4. 3	11. 2	
			I3	98. 5	2064. 84	-77. 3	3. 0	-8. 6	-3. 8	11. 8	
			I4	98. 5	1969. 31	-76. 9	3. 0	-12. 3	-2. 7	9. 5	
			I5	98. 5	2164. 14	-77. 7	3. 0	-15. 8	-2. 5	5. 5	
			I6	98. 5	2129. 71	-77. 6	3. 0	-15. 1	-2. 5	6. 3	
			I7	98. 5	2180. 31	-77. 8	3. 0	-11. 4	-3. 1	9. 2	
			I8	98. 5	2169. 84	-77. 7	3. 0	-11. 2	-3. 1	9. 4	
			I9	98. 5	1903. 58	-76. 6	3. 0	-12. 0	-2. 7	10. 2	
		新尻労	S1	98. 5	1712. 89	-75. 7	3. 0	-15. 7	-2. 1	8. 0	
			S2	98. 5	1665. 63	-75. 4	3. 0	-12. 9	-2. 3	10. 9	
			S3	98. 5	1325. 67	-73. 4	3. 0	-10. 0	-2. 3	15. 7	
			S4	98. 5	1117. 20	-72. 0	3. 0	-0. 3	-2. 9	26. 4	
			S5	98. 5	1085. 85	-71. 7	3. 0	0	-2. 6	27. 2	
		32. 6	北野沢 WF (新設)	1 号機	102. 3	1055. 78	-71. 5	3. 0	0	-5. 0	28. 8
				2 号機	102. 3	949. 95	-70. 5	3. 0	0	-4. 8	29. 9
				3 号機	102. 3	1350. 42	-73. 6	3. 0	-7. 8	-5. 7	18. 2
	4 号機			102. 3	1841. 56	-76. 3	3. 0	-11. 7	-4. 4	12. 9	

表 32-3 (2) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量 (秋季調査時の気象条件・夜間)

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 2	11.6	新岩屋 WP	1 号機	103.1	4106.73	-83.3	4.1	-15.5	-6.7	1.8	
			2 号機	103.1	3861.08	-82.7	4.0	-16.5	-6.1	1.9	
			3 号機	103.1	3391.32	-81.6	3.7	-17.5	-5.3	2.5	
			4 号機	103.1	3166.80	-81.0	3.5	-18.3	-4.9	2.5	
			5 号機	103.1	3207.04	-81.1	3.6	-20.7	-4.4	0.4	
			6 号機	103.1	3015.81	-80.6	3.4	-17.9	-4.8	3.3	
			7 号機	103.1	2811.90	-80.0	3.2	-13.6	-6.0	6.7	
	28.2	新岩屋	I1	98.5	2637.25	-79.4	3.0	-10.8	-3.7	7.5	
			I2	98.5	2501.90	-79.0	3.0	-9.0	-4.2	9.4	
			I3	98.5	2394.88	-78.6	3.0	-8.9	-4.1	9.9	
			I4	98.5	2375.96	-78.5	3.0	-7.8	-4.6	10.6	
			I5	98.5	2627.89	-79.4	3.0	-7.8	-4.9	9.4	
			I6	98.5	2642.01	-79.4	3.0	-7.8	-4.9	9.4	
			I7	98.5	2737.28	-79.7	3.0	-7.8	-5.0	9.0	
			I8	98.5	2764.70	-79.8	3.0	-7.8	-5.0	8.8	
			I9	98.5	2492.78	-78.9	3.0	-7.8	-4.7	10.1	
		新尻労	S1	98.5	2204.49	-77.9	3.0	-7.8	-4.3	11.5	
			S2	98.5	2235.65	-78.0	3.0	-7.8	-4.4	11.4	
			S3	98.5	1876.34	-76.5	3.0	-1.0	-5.0	19.1	
			S4	98.5	1588.89	-75.0	3.0	0	-3.4	23.0	
			S5	98.5	1416.05	-74.0	3.0	0	-3.2	24.2	
		33.4	北野沢 WF (新設)	1 号機	102.3	1179.49	-72.4	3.0	0	-5.3	27.5
				2 号機	102.3	893.36	-70.0	3.0	0	-4.6	30.6
				3 号機	102.3	1214.37	-72.7	3.0	-0.3	-6.0	26.3
				4 号機	102.3	1692.81	-75.6	3.0	-10.1	-4.9	14.7

表 32-3 (3) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（秋季調査時の気象条件・夜間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 3	35.1	新岩屋 WP	1 号機	103.1	1062.64	-71.5	3.0	0	-6.1	28.4	
			2 号機	103.1	894.02	-70.0	3.0	-0.2	-5.9	30.0	
			3 号機	103.1	708.86	-68.0	3.0	-7.8	-4.8	25.6	
			4 号機	103.1	531.57	-65.5	3.0	-7.6	-4.0	29.0	
			5 号機	103.1	1043.17	-71.4	3.0	-10.3	-4.7	19.8	
			6 号機	103.1	835.98	-69.4	3.0	-8.2	-5.1	23.5	
			7 号機	103.1	1226.41	-72.8	3.0	-7.8	-6.5	19.1	
	22.3	新岩屋	I1	98.5	1495.70	-74.5	3.0	-7.8	-3.3	15.9	
			I2	98.5	1730.82	-75.8	3.0	-7.8	-3.7	14.3	
			I3	98.5	2013.34	-77.1	3.0	-7.8	-4.1	12.6	
			I4	98.5	2311.52	-78.3	3.0	-7.8	-4.5	11.0	
			I5	98.5	2559.71	-79.2	3.0	-7.8	-4.8	9.8	
			I6	98.5	2792.29	-79.9	3.0	-7.8	-5.1	8.7	
			I7	98.5	3049.71	-80.7	3.2	-7.9	-5.4	7.7	
			I8	98.5	3286.48	-81.3	3.4	-8.1	-5.7	6.7	
			I9	98.5	3159.65	-81.0	3.3	-8.0	-5.5	7.2	
		新尻労	S1	98.5	2652.97	-79.5	3.0	-7.8	-4.9	9.3	
			S2	98.5	2995.99	-80.5	3.0	-7.8	-5.3	7.9	
			S3	98.5	2893.55	-80.2	3.0	-7.8	-5.2	8.3	
			S4	98.5	2685.89	-79.6	3.0	-7.8	-5.0	9.2	
			S5	98.5	2413.84	-78.6	3.0	-7.8	-4.6	10.5	
		26.1	北野沢 WF (新設)	1 号機	102.3	2291.98	-78.2	3.0	-2.8	-11.3	12.9
				2 号機	102.3	2437.74	-78.7	3.0	-7.7	-7.5	11.3
				3 号機	102.3	2029.50	-77.1	3.0	-0.4	-8.3	19.4
				4 号機	102.3	1517.32	-74.6	3.0	0	-6.1	24.5

表 32-4(1) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（夏季調査時の気象条件・昼間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)
騒音 1	12. 7	新岩屋 WP	1 号機	103. 1	4110. 07	-83. 3	4. 1	-15. 7	-7. 5	0. 8
			2 号機	103. 1	3850. 74	-82. 7	4. 0	-17. 0	-6. 6	0. 8
			3 号機	103. 1	3358. 03	-81. 5	3. 7	-14. 6	-7. 2	3. 6
			4 号機	103. 1	3165. 19	-81. 0	3. 5	-19. 0	-5. 3	1. 4
			5 号機	103. 1	3091. 70	-80. 8	3. 5	-13. 2	-7. 5	5. 1
			6 号機	103. 1	2949. 22	-80. 4	3. 4	-15. 3	-6. 3	4. 6
			7 号機	103. 1	2663. 64	-79. 5	3. 1	-9. 8	-8. 9	8. 0
	29. 6	新岩屋	I1	98. 5	2432. 71	-78. 7	3. 0	-8. 0	-5. 7	9. 0
			I2	98. 5	2243. 48	-78. 0	3. 0	-7. 9	-5. 5	10. 1
			I3	98. 5	2064. 84	-77. 3	3. 0	-8. 6	-4. 8	10. 8
			I4	98. 5	1969. 31	-76. 9	3. 0	-12. 3	-3. 6	8. 8
			I5	98. 5	2164. 14	-77. 7	3. 0	-15. 7	-3. 3	4. 8
			I6	98. 5	2129. 71	-77. 6	3. 0	-15. 0	-3. 3	5. 6
			I7	98. 5	2180. 31	-77. 8	3. 0	-11. 4	-4. 0	8. 3
			I8	98. 5	2169. 84	-77. 7	3. 0	-11. 2	-4. 1	8. 5
			I9	98. 5	1903. 58	-76. 6	3. 0	-12. 0	-3. 5	9. 4
		新尻労	S1	98. 5	1712. 89	-75. 7	3. 0	-15. 6	-2. 7	7. 4
			S2	98. 5	1665. 63	-75. 4	3. 0	-12. 8	-3. 0	10. 2
			S3	98. 5	1325. 67	-73. 4	3. 0	-10. 0	-3. 0	15. 0
			S4	98. 5	1117. 20	-72. 0	3. 0	-0. 3	-3. 6	25. 6
			S5	98. 5	1085. 85	-71. 7	3. 0	0	-3. 2	26. 5
	32. 3	北野沢 WF (新設)	1 号機	102. 3	1055. 78	-71. 5	3. 0	0	-5. 4	28. 4
			2 号機	102. 3	949. 95	-70. 5	3. 0	0	-5. 0	29. 7
			3 号機	102. 3	1350. 42	-73. 6	3. 0	-7. 8	-6. 3	17. 6
			4 号機	102. 3	1841. 56	-76. 3	3. 0	-11. 7	-5. 2	12. 1

表 32-4 (2) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（夏季調査時の気象条件・昼間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 2	10.9	新岩屋 WP	1 号機	103.1	4106.73	-83.3	4.1	-15.4	-7.6	0.9	
			2 号機	103.1	3861.08	-82.7	4.0	-16.4	-6.9	1.1	
			3 号機	103.1	3391.32	-81.6	3.7	-17.4	-6.1	1.8	
			4 号機	103.1	3166.80	-81.0	3.5	-18.2	-5.6	1.9	
			5 号機	103.1	3207.04	-81.1	3.6	-20.6	-5.0	0	
			6 号機	103.1	3015.81	-80.6	3.4	-17.8	-5.5	2.7	
			7 号機	103.1	2811.90	-80.0	3.2	-13.6	-7.0	5.8	
	27.1	新岩屋	I1	98.5	2637.25	-79.4	3.0	-10.8	-4.8	6.5	
			I2	98.5	2501.90	-79.0	3.0	-9.0	-5.3	8.2	
			I3	98.5	2394.88	-78.6	3.0	-8.9	-5.2	8.8	
			I4	98.5	2375.96	-78.5	3.0	-7.8	-5.8	9.4	
			I5	98.5	2627.89	-79.4	3.0	-7.8	-6.2	8.2	
			I6	98.5	2642.01	-79.4	3.0	-7.8	-6.2	8.1	
			I7	98.5	2737.28	-79.7	3.0	-7.8	-6.3	7.7	
			I8	98.5	2764.70	-79.8	3.0	-7.8	-6.4	7.5	
			I9	98.5	2492.78	-78.9	3.0	-7.8	-6.0	8.8	
		新尻労	S1	98.5	2204.49	-77.9	3.0	-7.8	-5.5	10.4	
			S2	98.5	2235.65	-78.0	3.0	-7.8	-5.5	10.2	
			S3	98.5	1876.34	-76.5	3.0	-1.0	-6.5	17.5	
			S4	98.5	1588.89	-75.0	3.0	0	-4.3	22.1	
			S5	98.5	1416.05	-74.0	3.0	0	-4.0	23.4	
		33.0	北野沢 WF (新設)	1 号機	102.3	1179.49	-72.4	3.0	0	-5.8	27.1
				2 号機	102.3	893.36	-70.0	3.0	0	-4.8	30.4
				3 号機	102.3	1214.37	-72.7	3.0	-0.3	-6.6	25.7
				4 号機	102.3	1692.81	-75.6	3.0	-10.1	-5.7	13.9

表 32-4 (3) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（夏季調査時の気象条件・昼間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 3	35. 2	新岩屋 WP	1 号機	103. 1	1062. 64	-71. 5	3. 0	0	-6. 2	28. 3	
			2 号機	103. 1	894. 02	-70. 0	3. 0	-0. 2	-5. 9	30. 0	
			3 号機	103. 1	708. 86	-68. 0	3. 0	-7. 8	-4. 5	25. 8	
			4 号機	103. 1	531. 57	-65. 5	3. 0	-7. 6	-3. 7	29. 3	
			5 号機	103. 1	1043. 17	-71. 4	3. 0	-10. 3	-4. 9	19. 6	
			6 号機	103. 1	835. 98	-69. 4	3. 0	-8. 2	-5. 0	23. 6	
			7 号機	103. 1	1226. 41	-72. 8	3. 0	-7. 8	-6. 7	18. 9	
	21. 2	新岩屋	I1	98. 5	1495. 70	-74. 5	3. 0	-7. 8	-4. 1	15. 1	
			I2	98. 5	1730. 82	-75. 8	3. 0	-7. 8	-4. 6	13. 3	
			I3	98. 5	2013. 34	-77. 1	3. 0	-7. 8	-5. 1	11. 5	
			I4	98. 5	2311. 52	-78. 3	3. 0	-7. 8	-5. 7	9. 8	
			I5	98. 5	2559. 71	-79. 2	3. 0	-7. 8	-6. 1	8. 5	
			I6	98. 5	2792. 29	-79. 9	3. 0	-7. 8	-6. 4	7. 4	
			I7	98. 5	3049. 71	-80. 7	3. 2	-7. 9	-6. 8	6. 3	
			I8	98. 5	3286. 48	-81. 3	3. 4	-8. 1	-7. 1	5. 3	
			I9	98. 5	3159. 65	-81. 0	3. 3	-8. 0	-6. 9	5. 8	
		新尻労	S1	98. 5	2652. 97	-79. 5	3. 0	-7. 8	-6. 2	8. 0	
			S2	98. 5	2995. 99	-80. 5	3. 0	-7. 8	-6. 7	6. 5	
			S3	98. 5	2893. 55	-80. 2	3. 0	-7. 8	-6. 5	6. 9	
			S4	98. 5	2685. 89	-79. 6	3. 0	-7. 8	-6. 2	7. 9	
			S5	98. 5	2413. 84	-78. 6	3. 0	-7. 8	-5. 8	9. 2	
		25. 1	北野沢 WF (新設)	1 号機	102. 3	2291. 98	-78. 2	3. 0	-3. 0	-12. 3	11. 8
				2 号機	102. 3	2437. 74	-78. 7	3. 0	-7. 7	-8. 7	10. 1
				3 号機	102. 3	2029. 50	-77. 1	3. 0	-0. 4	-9. 8	17. 9
				4 号機	102. 3	1517. 32	-74. 6	3. 0	0	-6. 9	23. 8

表 32-5(1) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（夏季調査時の気象条件・夜間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)
騒音 1	15.4	新岩屋 WP	1 号機	105.5	4110.07	-83.3	4.1	-15.7	-7.2	3.4
			2 号機	105.5	3850.74	-82.7	4.0	-17.0	-6.4	3.4
			3 号機	105.5	3358.04	-81.5	3.7	-14.6	-6.9	6.2
			4 号機	105.5	3165.19	-81.0	3.5	-19.0	-5.2	3.9
			5 号機	105.5	3091.70	-80.8	3.5	-13.2	-7.2	7.8
			6 号機	105.5	2949.22	-80.4	3.4	-15.3	-6.0	7.2
			7 号機	105.5	2663.64	-79.5	3.1	-9.8	-8.5	10.8
	32.9	新岩屋	I1	101.5	2432.71	-78.7	3.0	-8.0	-5.4	12.4
			I2	101.5	2243.47	-78.0	3.0	-7.9	-5.1	13.4
			I3	101.5	2064.84	-77.3	3.0	-8.6	-4.5	14.1
			I4	101.5	1969.31	-76.9	3.0	-12.3	-3.3	12.0
			I5	101.5	2164.14	-77.7	3.0	-15.7	-3.1	8.0
			I6	101.5	2129.71	-77.6	3.0	-15.0	-3.1	8.8
			I7	101.5	2180.31	-77.8	3.0	-11.4	-3.8	11.5
			I8	101.5	2169.84	-77.7	3.0	-11.2	-3.8	11.7
			I9	101.5	1903.58	-76.6	3.0	-12.0	-3.3	12.6
		新尻労	S1	101.5	1712.89	-75.7	3.0	-15.7	-2.6	10.6
			S2	101.5	1665.63	-75.4	3.0	-12.8	-2.8	13.4
			S3	101.5	1325.67	-73.4	3.0	-10.0	-2.8	18.3
			S4	101.5	1117.20	-72.0	3.0	-0.3	-3.3	28.9
			S5	101.5	1085.85	-71.7	3.0	0	-3.0	29.8
		北野沢 WF (新設)	1 号機	105.5	1055.78	-71.5	3.0	0	-5.1	31.9
			2 号機	105.5	949.95	-70.5	3.0	0	-4.8	33.1
			3 号機	105.5	1350.42	-73.6	3.0	-7.8	-6.0	21.1
			4 号機	105.5	1841.56	-76.3	3.0	-11.7	-5.0	15.5

表 32-5 (2) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（夏季調査時の気象条件・夜間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)
騒音 2	13.5	新岩屋 WP	1 号機	105.5	4106.73	-83.3	4.1	-15.5	-7.4	3.6
			2 号機	105.5	3861.08	-82.7	4.0	-16.4	-6.7	3.7
			3 号機	105.5	3391.32	-81.6	3.7	-17.4	-5.8	4.4
			4 号機	105.5	3166.8	-81.0	3.5	-18.3	-5.4	4.5
			5 号機	105.5	3207.04	-81.1	3.6	-20.6	-4.8	2.5
			6 号機	105.5	3015.81	-80.6	3.4	-17.8	-5.3	5.3
			7 号機	105.5	2811.9	-80.0	3.2	-13.6	-6.7	8.5
	30.4	新岩屋	I1	101.5	2637.25	-79.4	3.0	-10.8	-4.5	9.8
			I2	101.5	2501.9	-79.0	3.0	-9.0	-5.0	11.5
			I3	101.5	2394.88	-78.6	3.0	-8.9	-4.9	12.1
			I4	101.5	2375.96	-78.5	3.0	-7.8	-5.4	12.8
			I5	101.5	2627.89	-79.4	3.0	-7.8	-5.8	11.5
			I6	101.5	2642.01	-79.4	3.0	-7.8	-5.8	11.5
			I7	101.5	2737.28	-79.7	3.0	-7.8	-6.0	11.0
			I8	101.5	2764.7	-79.8	3.0	-7.8	-6.0	10.9
			I9	101.5	2492.78	-78.9	3.0	-7.8	-5.6	12.2
		新尻労	S1	101.5	2204.49	-77.9	3.0	-7.8	-5.1	13.7
			S2	101.5	2235.65	-78.0	3.0	-7.8	-5.2	13.5
			S3	101.5	1876.34	-76.5	3.0	-1.0	-6.0	21.0
			S4	101.5	1588.89	-75.0	3.0	0	-4.0	25.4
			S5	101.5	1416.05	-74.0	3.0	0	-3.7	26.7
		北野沢 WF (新設)	1 号機	105.5	1179.49	-72.4	3.0	0	-5.5	30.6
			2 号機	105.5	893.36	-70.0	3.0	0	-4.6	33.9
			3 号機	105.5	1214.37	-72.7	3.0	-0.3	-6.2	29.3
			4 号機	105.5	1692.81	-75.6	3.0	-10.1	-5.4	17.4

表 32-5 (3) ハブ高さ風速 6m/s における騒音レベルの伝搬減衰量（夏季調査時の気象条件・夜間）

予測地点	寄与値 (重合) (dB)	風力発電機		パワー レベル (dB)	直達 距離 (m)	距離 減衰 (dB)	地表面 減衰 (dB)	回折 減衰 (dB)	空気吸収 減衰 (dB)	騒音 レベル (dB)	
騒音 3	37.9	新岩屋 WP	1 号機	105.5	1062.64	-71.5	3.0	0	-5.9	31.1	
			2 号機	105.5	894.02	-70.0	3.0	-0.2	-5.5	32.8	
			3 号機	105.5	708.86	-68.0	3.0	-7.8	-4.3	28.5	
			4 号機	105.5	531.57	-65.5	3.0	-7.6	-3.5	31.9	
			5 号機	105.5	1043.17	-71.4	3.0	-10.3	-4.6	22.2	
			6 号機	105.5	835.98	-69.4	3.0	-8.2	-4.7	26.3	
			7 号機	105.5	1226.41	-72.8	3.0	-7.8	-6.4	21.6	
	24.5	新岩屋	I1	101.5	1495.7	-74.5	3.0	-7.8	-3.9	18.4	
			I2	101.5	1730.82	-75.8	3.0	-7.8	-4.3	16.6	
			I3	101.5	2013.34	-77.1	3.0	-7.8	-4.8	14.8	
			I4	101.5	2311.52	-78.3	3.0	-7.8	-5.3	13.1	
			I5	101.5	2559.71	-79.2	3.0	-7.8	-5.7	11.9	
			I6	101.5	2792.29	-79.9	3.0	-7.8	-6.0	10.8	
			I7	101.5	3049.71	-80.7	3.2	-7.9	-6.4	9.6	
			I8	101.5	3286.48	-81.3	3.4	-8.1	-6.7	8.7	
			I9	101.5	3159.65	-81.0	3.3	-8.0	-6.5	9.2	
		新尻労	S1	101.5	2652.97	-79.5	3.0	-7.8	-5.8	11.4	
			S2	101.5	2995.99	-80.5	3.0	-7.8	-6.3	9.9	
			S3	101.5	2893.55	-80.2	3.0	-7.8	-6.2	10.3	
			S4	101.5	2685.89	-79.6	3.0	-7.8	-5.9	11.2	
			S5	101.5	2413.84	-78.6	3.0	-7.8	-5.5	12.6	
		28.7	北野沢 WF (新設)	1 号機	105.5	2291.98	-78.2	3.0	-2.9	-11.9	15.5
				2 号機	105.5	2437.74	-78.7	3.0	-7.7	-8.3	13.7
				3 号機	105.5	2029.50	-77.1	3.0	-0.4	-9.2	21.7
				4 号機	105.5	1517.32	-74.6	3.0	0	-6.5	27.3